

Oracle® Secure Global Desktop プラットフォームサポートおよびリリースノート (リリース 4.7 用)



E35906-01
2012 年 8 月

Oracle® Secure Global Desktop: プラットフォームサポートおよびリリースノート (リリース 4.7 用)

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアはさまざまな情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

概要

このドキュメントでは、オラクル Secure Global Desktop 4.7 の新機能と変更された機能について説明します。サポート対象や既知の問題についても記載します。

ドキュメント作成日: 2013-01-04 (revision: 1406)

目次

はじめに	v
1. 対象ユーザー	v
2. ドキュメントの構成	v
3. ドキュメントのアクセシビリティ	v
4. 関連ドキュメント	v
5. 表記規則	v
1. 新機能および変更点	1
1.1. リリース 4.70 の新機能	1
1.1.1. デフォルトでのセキュアインストール	1
1.1.2. 新しい X サーバー実装	1
1.1.3. Windows アプリケーション用のオーディオ録音	1
1.1.4. Windows アプリケーション用のネットワークレベル認証サポート	1
1.1.5. Oracle VDI 用の新規仮想サーバーブローカ	2
1.2. リリース 4.70 での変更	2
1.2.1. SGD Client のインストールの変更	2
1.2.2. デフォルトの接続方法の変更	2
1.2.3. ユーザー定義 SGD ブローカの新しいパラメータ	3
1.2.4. ローカル起動がサポートされない	3
1.2.5. Client Access License プールの削除	3
1.2.6. アプリケーションオブジェクト用の表示属性の変更	3
1.2.7. このリリースで削除された機能	3
1.2.8. ドキュメントの変更	3
1.2.9. サポートされるロケールの変更	4
2. システム要件とサポート	5
2.1. SGD サーバーの要件とサポート	5
2.1.1. SGD のハードウェア要件	5
2.1.2. SGD でサポートされるインストールプラットフォーム	5
2.1.3. サポートされるアップグレードパス	7
2.1.4. Java テクノロジーのバージョン	7
2.1.5. 必要なユーザーと特権	8
2.1.6. ネットワークの要件	8
2.1.7. 時刻の同期	9
2.1.8. SGD Web サーバー	9
2.1.9. サポートされる認証メカニズム	10
2.1.10. SSL のサポート	11
2.1.11. 印刷サポート	11
2.2. クライアントデバイスの要件とサポート	11
2.2.1. サポートされるクライアントプラットフォーム	11
2.2.2. サポートされているプロキシサーバー	14
2.2.3. PDF 印刷のサポート	14
2.2.4. サポートされるスマートカード	14
2.3. SGD Gateway の要件とサポート	14
2.3.1. SGD Gateway でサポートされるインストールプラットフォーム	15
2.3.2. SGD Gateway の SGD サーバー要件	15
2.3.3. Apache Web Server	16
2.3.4. Java テクノロジーのバージョン	16
2.3.5. SSL のサポート	16
2.4. アプリケーション要件とサポート	17
2.4.1. サポートされるアプリケーション	17
2.4.2. SGD 拡張モジュールでサポートされるインストールプラットフォーム	17
2.4.3. Microsoft Windows リモートデスクトップサービス	19
2.4.4. X アプリケーションと文字型アプリケーション	20
2.4.5. Virtual Desktop Infrastructure	22
2.5. 除去された機能	22
2.5.1. SGD の次回リリースでの変更	23
3. 既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題	25
3.1. 既知のバグと問題	25

3.1.1. 2205237 – 切断されたセッションを再起動するとシームレスウィンドウの表示に問題がある	25
3.1.2. 6555834 - Java テクノロジがブラウザでは有効になっているが、クライアントデバイスにインストールされていない	25
3.1.3. 6831480 - バックアッププライマリリストコマンドがエラーを返す	25
3.1.4. 6863153 - 再配置された Windows デスクトップセッションで HyperTerminal アプリケーションがハングする	25
3.1.5. 6937146 - 64 ビット Linux アプリケーションサーバーでホストされる X アプリケーションでオーディオが使用できない	26
3.1.6. 6942981 - Solaris Trusted Extensions でアプリケーションの起動に時間がかかる	26
3.1.7. 6957820 - Windows アプリケーションでスマートカード認証を使用すると、SGD Client がハングする	26
3.1.8. 6962970 - Windows クライアントデバイスで複数の CAL が使用される	27
3.1.9. 6970615 - X アプリケーションで SecurID 認証が失敗する	27
3.1.10. 7004887 – Windows クライアントデバイスの「ファイルへ印刷」が失敗する	27
3.1.11. 12300549 – 一部のクライアントロケールでホームディレクトリ名を読み取れなくなる	27
3.1.12. 13068287 – 16 ビットカラーの OpenGL アプリケーションの問題	27
3.1.13. 13117149 – Active Directory ユーザー名のアクセント付き文字	27
3.1.14. 13354844、14032389、13257432、13117470 – Ubuntu クライアントデバイス上の表示の問題	28
3.1.15. 13360596 – Oracle VDI でのパススルー認証の問題	28
3.1.16. 13971245 – Oracle Solaris 11 でのパッケージ削除の問題	29
3.1.17. 14026511 – Oracle VDI のアップグレード後に VDI ブローカ接続が失敗する	29
3.1.18. 14021467 – Webtop での言語の選択の問題	29
3.1.19. 14085800 – Active Directory の期限経過パスワード処理の問題	30
3.1.20. 14147506 – プライマリサーバーが変更された場合にアレイ回復が失敗する	30
3.1.21. 14221098 – Oracle Linux で Konsole アプリケーションが起動に失敗する	30
3.1.22. 14237565 – Windows 以外のクライアントデバイスで印刷するときのページサイズの問題	31
3.1.23. 14287570 – 画面解像度が高い場合に Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションのカラー発色数が 8 ビットに制限される	31
3.1.24. 14287730 – コマンド行からシャドウイングするときの X エラーメッセージ	31
3.1.25. 14404371 – 認証ダイアログのユーザー入力文字を読み取れない	31
3.1.26. 14408025 – Ubuntu Linux 上で SGD Client が突然終了する	32
3.1.27. 14472019 – システムの起動時に SGD が起動しない	32
3.2. version 4.70 で修正されたバグ	32
3.3. リリース 4.70 でのドキュメントの問題	39
3.3.1. レガシー VDI ブローカのドキュメントの問題	39
3.4. フィードバックの提供および問題の報告	40
3.4.1. Oracle スペシャリストサポートへの連絡	40

はじめに

『Oracle Secure Global Desktop のプラットフォームサポートおよびリリースノート (リリース 4.7 用)』では、Oracle Secure Global Desktop (SGD) のこのバージョンについてのシステム要件およびサポートと、新機能および変更された機能についての情報を提供します。このマニュアルはシステム管理者向けに記述されています。

1. 対象ユーザー

このドキュメントは、SGD の新規ユーザーを対象にしています。Web 関連のテクノロジーに関する知識と、Windows および UNIX のプラットフォームに関する一般的な知識が必要となります。

2. ドキュメントの構成

このドキュメントは次のように構成されています。

- **1章新機能および変更点**では、Oracle Secure Global Desktop のこのバージョンの新機能と変更された機能について説明します。
- **2章システム要件とサポート**では、Oracle Secure Global Desktop のこのバージョンについてのシステム要件およびサポートされるプラットフォームについて、詳細に説明します。
- **3章既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題**では、Oracle Secure Global Desktop のこのバージョンの既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題について説明します。フィードバックの提供やバグの報告の詳細についても記載されています。

3. ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対するOracleのコミットメントについては、OracleのアクセシビリティプログラムのWeb サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

お客様は、My Oracle Support を通じてオンラインでのサポートをご利用いただけます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> (聴覚障害をお持ちの方は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

4. 関連ドキュメント

この製品のドキュメントは、次のサイトで入手できます。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/index.html/documentation/sgd-193668.html>

追加情報については、次のマニュアルを参照してください。

- Oracle Secure Global Desktop 管理者ガイド (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop インストールガイド (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop Gateway 管理者ガイド (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop ユーザーガイド (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop Security Guide for Release 4.7

5. 表記規則

このドキュメントでは、次のような表記規則を使用しています。

表記規則	意味
ボールド体	ボールド体の個所は、アクションに関連するグラフィカルユーザーインターフェース要素、テキストや用語集で定義された用語などを表しています。
イタリック体	イタリック体の個所は、書名、強調語句、特定の値が指定されるプレースホルダ変数などを表しています。
モノスペース体	モノスペース体の個所は、パラグラフ内のコマンド、URL、例示されているコード、画面上に表示されるテキスト、ユーザーが入力するテキストなどを表しています。

第1章 新機能および変更点

この章では、Oracle Secure Global Desktop (SGD) リリース 4.70 の新機能および変更点について説明します。

1.1. リリース 4.70 の新機能

このセクションでは、SGD 4.70 リリースの新機能について説明します。

1.1.1. デフォルトでのセキュアインストール

SGD の以前のリリースでは、SGD サーバーへの接続のセキュリティー保護は、インストール後処理タスクとして行われていました。このリリースでは、SGD サーバーへの接続のセキュリティー保護は、インストール中に行うことができます。このことをセキュアモードでのインストールと呼びます。

セキュアモードインストールでは、`tarantella security enable` コマンドを使用して、SGD セキュリティーサービスを自動的に構成および有効化します。インストール中、ユーザーは接続をセキュリティー保護するための独自の SSL (Secure Sockets Layer) 証明書を使用することを選択できます。

また、セキュアモードインストールは、SGD サーバーのアレイ内でのセキュア通信を有効にします。つまり、アレイ内での SGD サーバー間の接続が暗号化されることを意味します。

セキュア接続を使用しない SGD のインストールも、引き続き可能です。

セキュアモードでのインストールの詳細については、[SGD のインストール](#)を参照してください。

1.1.2. 新しい X サーバー実装

このリリースでは、X.Org Foundation X サーバーリリース X11R7.6 に基づく新しい X プロトコルエンジン実装を取り込んでいます。

この新しい実装は、複数モニターとセッションの動的なサイズ変更のための拡張されたサポートを提供します。これらの機能は、RANDR 拡張と XINERAMA X 拡張の使用を通じて使用可能になります。

RANDR 拡張サポートを構成するための新しい属性が導入されました。RandR 拡張 (`--array-xrandr-enabled`) 属性は、アレイの RANDR サポートを使用可能にします。ウィンドウサイズ: RandR 拡張 (`--xrandr`) は、アプリケーションオブジェクトの RANDR サポートを使用可能にします。

SGD は X キーボード (XKB) X 拡張をサポートするようになりました。XKB の使用によって、より多くのロケールへの組み込みサポートが提供されることにより、グローバル化サポートが強化されます。X アプリケーションのキーボード入力を処理するためのレガシーのキーボードマップおよびサーバー側の構成は、不要になりました。

これらの新機能を使用するためのアプリケーションの構成の詳細については、[RANDR X の拡張機能の使用](#)を参照してください。

1.1.3. Windows アプリケーション用のオーディオ録音

このリリースでは、SGD 経由で表示される Windows アプリケーションでのオーディオ録音のサポートを提供しています。

SGD アレイのオーディオ入力を使用可能にするためのオーディオ入力 (`--array-audioin`) 属性が導入されました。

Windows アプリケーションのオーディオ録音を設定する方法の詳細については、[SGD オーディオサービスの有効化](#)を参照してください。

1.1.4. Windows アプリケーション用のネットワークレベル認証サポート

このリリースでは、Windows アプリケーションユーザーを認証するための、CredSSP を使用したネットワークレベル認証 (NLA) の使用をサポートしています。NLA を使用することによって、ユーザーは Windows アプリケーションサーバーでのセッションを確立する前に、自分自身を認証できます。

Windows アプリケーション用の NLA を構成するための拡張ネットワークセキュリティー (`--enhancednetworksecurity`) 属性が導入されました。デフォルトでは、この属性は有効になっています。

1.1.5. Oracle VDI 用の新規仮想サーバーブローカ

Oracle Virtual Desktop Infrastructure (Oracle VDI) 配備との統合をさらに緊密にするために、新しい仮想サーバーブローカが導入されました。新しいブローカは Oracle VDI リリース 3.3 以降と一緒に使用できます。

新しいブローカは Oracle VDI Web サービス API を使用して、ユーザーの認証、デスクトップの一覧の取得、デスクトップの開始および停止を行います。このブローカがあれば、SGD と Oracle VDI は別々のホストにインストールできます。

この新しいブローカは VDI ブローカと呼ばれます。レガシーの Oracle VDI インストール向けの既存のブローカは、以前 VDI ブローカと呼ばれていましたが、このリリースではレガシー VDI ブローカに名前が変更されました。

次の表に、Oracle VDI バージョンに対するブローカの互換性を示します。

表1.1 Oracle VDI と一緒に使用されるブローカ

ブローカ名	Oracle VDI バージョン
VDI ブローカ	3.3.2 および 3.4.1
レガシー VDI ブローカ	3.2

VDI ブローカは、専用の証明書トラストストア、ホスト負荷分散、タイムアウトなどの追加の機能を提供します。

VDI ブローカを構成および使用する方法の詳細については、[VDI ブローカ](#)を参照してください。

レガシー VDI ブローカに関するドキュメントの問題についての重要な情報は、「[レガシー VDI ブローカのドキュメントの問題](#)」を参照してください。

1.2. リリース 4.70 での変更

このセクションでは、SGD 4.60 リリース以降に変更された点について説明します。

1.2.1. SGD Client のインストールの変更

SGD Client のインストールについて、次の変更が行われました。

- 自動インストール。デフォルトのインストールディレクトリが変更されました。

変更の詳細については、[SGD Client の自動インストール](#)を参照してください。

- 手動インストール。共有ファイルシステム向けのサポートを提供するために、管理者は SGD Client をシステム規模の場所にインストールできるようになりました。

SGD は、ユーザーが手動でインストールしたすべての SGD Client の場所について、記録を保持します。

Mac OS X プラットフォームでの手動インストールがサポートされるようになりました。

デフォルトのログファイルの場所が変更されました。Windows プラットフォーム上では、出力はユーザーのアプリケーションデータフォルダに記録されます。UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームでは、出力は現在システムログの場所に記録されています。

1.2.2. デフォルトの接続方法の変更

接続方法 (`--method`) 属性は、アプリケーションサーバーへのアクセスおよびアプリケーションの起動のために SGD サーバーによって使用されるメカニズムを指定します。

デフォルトの接続方法設定が `telnet` から `ssh` に変更されました。

`rexec` 設定は利用できなくなりました。

1.2.3. ユーザー定義 SGD ブローカの新しいパラメータ

チューザページの構成を有効にする新しいパラメータがユーザー定義の SGD ブローカに対して導入されました。ユーザー定義の SGD ブローカは、SGD の動的起動機能を使用して、アプリケーションを開始するときにユーザーがアプリケーションサーバーを選択または指定することができます。

新しいパラメータは次のとおりです。

- `hideAppservers`。アプリケーションサーバーのリストがチューザページに表示されません。
- `checkAppserver`。ユーザー指定のアプリケーションサーバーの場合、SGD は、そのアプリケーションサーバーがアプリケーションオブジェクトに割り当てられていることを確認します。そのアプリケーションサーバーがアプリケーションオブジェクトに割り当てられていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

1.2.4. ローカル起動がサポートされない

Windows クライアントデバイス上でアプリケーションを実行するためのサポート (ローカル起動と呼ばれる) が削除されました。ローカルクライアント起動 (`--trylocal`) 属性は、非推奨です。

ウィンドウタイプ (`--displayusing`) 属性についてのローカル X サーバー (`localx`) 設定はサポートされなくなりました。

ローカル X サーバーのチェックのプロファイル設定は使用できません。

1.2.5. Client Access License プールの削除

Windows 以外のクライアントデバイス用の Client Access License (CAL) は SGD サーバー上のライセンスプールに保管されなくなりました。CAL はクライアントデバイス上の場所に保管されます。

ライセンスプールの管理に使用される `tarantella tscal` コマンドは、使用できません。



注記

SGD サーバーをアップグレードすると、ライセンスプールに格納されていたすべての CAL が削除されます。Windows 以外のクライアントデバイスは、適切な CAL がクライアントデバイスに格納されるまで、リモートデスクトップセッションホストによって発行された一時的な CAL を使用できます。

CAL 管理の詳細については、Microsoft リモートデスクトップサービスのドキュメントを参照してください。

1.2.6. アプリケーションオブジェクト用の表示属性の変更

このリリースには新しい XPE 実装が導入されたため、次の表示属性はサポートされなくなりました。

- RGB データベース (`--xpe-rgbdatabase`)。XPE は X11 色名の組み込みサポートを提供します。
- ユーロ文字 (`--euro`)。ユーロ文字がデフォルトでサポートされるようになりました。
- キーボードマップ: ロック (`--lockkeymap`)。
- キーボードマップ (`--xpe-keymap`)。XKB 拡張がキーボードマップに使用されるようになりました。
- キーボードマップ (`--keymap`)。XKB 拡張がキーボードマップに使用されるようになりました。

1.2.7. このリリースで削除された機能

リリース 4.70 で削除された機能のリストについては、「[除去された機能](#)」を参照してください。

1.2.8. ドキュメントの変更

このリリースでは次のドキュメント変更が実行されました。

- セキュリティーガイド。新しいマニュアルの『オラクル Secure Global Desktop Security Guide for Release 4.7』は、管理者が SGD をセキュリティー保護された方法で配備することを支援するために導入されました。
- 翻訳済みドキュメント。ローカライズされたドキュメントは、次の言語で使用可能になります。
 - フランス語
 - 日本語
 - 中国語 (簡体字)

1.2.9. サポートされるロケールの変更

このリリースでは、SGD Client および Webtop は、次のサポート対象言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- スペイン語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)

第2章 システム要件とサポート

この章では、オラクル Secure Global Desktop (SGD) バージョン 4.70 についてのシステム要件およびサポートされるプラットフォームについて、詳細に説明します。

2.1. SGD サーバーの要件とサポート

このセクションでは、SGD サーバーについてのサポートされるプラットフォームおよび要件について説明します。

2.1.1. SGD のハードウェア要件

次に示すハードウェアの要件は、正確なサイズ決定ツールとしてではなく、指針として使用してください。ハードウェア要件に関する詳細な支援については、[Oracle 営業所](#)にお問い合わせください。

SGD のホストサーバーの要件は、次の項目の合計に基づいて計算できます。

- SGD のインストールと実行に必要となる量
- ホスト上の SGD にログインしてアプリケーションを実行するユーザーごとに必要となる量

SGD をインストールして実行するための要件は次のとおりです。

- 2G バイトの空きディスク容量
- 2G バイトの RAM
- 1GHz のプロセッサ
- ネットワークインタフェースカード

これは、オペレーティングシステム自体に必要なものに追加される量であり、サーバーが SGD 専用として使用されることを前提にしています。

SGD にログインしてアプリケーションを実行するユーザーをサポートするための要件は次のとおりです。

- ユーザーごとに 50M バイト以上
- ユーザーごとに 50MHz



注意

実際の CPU およびメモリー要件は、使用するアプリケーションによって大幅に変わります。

2.1.2. SGD でサポートされるインストールプラットフォーム

次の表に、SGD でサポートされるインストールプラットフォームを示します。

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
SPARC プラットフォーム上の Oracle Solaris	Solaris 10 8/11 (update 10)
	Solaris 11
	Solaris 10 8/11 (update 10) Trusted Extensions
	Solaris 11 Trusted Extensions
x86 プラットフォーム上の Oracle Solaris	Solaris 10 8/11 (update 10)
	Solaris 11

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
	Solaris 10 8/11 (update 10) Trusted Extensions Solaris 11 Trusted Extensions
Oracle Linux (32 ビットおよび 64 ビット)	5.7 5.8 6.2 6.3

Oracle Linux に準拠した Oracle 製品は、両ディストリビューション間での暗黙の互換性により、Red Hat Enterprise Linux でもサポートされます。Oracle は Red Hat Enterprise Linux 製品上で追加のテストを行なっていません。

2.1.2.1. オペレーティングシステムの変更

オペレーティングシステムの変更がいくつか必要になる場合があります。これらの変更を行わないと、SGD が適切にインストールされない場合や正しく動作しない場合があります。

2.1.2.1.1. Oracle Solaris

Oracle Solaris プラットフォームでは、次のオペレーティングシステムの変更が必要な場合があります。

- SGD に必要なライブラリを入手するには、エンドユーザー Oracle Solaris ディストリビューション以上のディストリビューションをインストールする必要があります。そうしない場合、SGD はインストールされません。
- Oracle Solaris の TCP Fusion 機能により、SGD で使用される一部のローカルソケット接続で問題が発生する可能性があります。SGD をインストールする前に、次のように TCP Fusion 機能を無効にします。

1. `/etc/system` ファイルのいちばん下に次の行を追加します。

```
set ip:do_tcp_fusion = 0x0
```

2. サーバーをリブートします。

- Oracle Solaris 11 プラットフォームでは、SGD は、`roles=root` 属性を持つ `/etc/user_attr` ファイル内の最初のエントリに管理特権を割り当てます。この Oracle Solaris ユーザーの資格情報を持っていることを確認してください。

インストール後、次のコマンドを使用して SGD 管理者を構成できます。

```
# tarantella object edit --name "o=Tarantella System Objects/cn=Administrator" \
--user user-name --surname family-name
```

2.1.2.1.2. Oracle Linux

Oracle Linux プラットフォームでは、次のオペレーティングシステムの変更が必要な場合があります。

- Oracle Linux のデフォルトの `/etc/hosts` ファイルには、単一のエントリが含まれています。このエントリは、SGD ホストのホスト名を誤ってローカルのループバックアドレス `127.0.0.1` にマップします。

`/etc/hosts` ファイルを編集してこのマッピングを削除し、SGD ホストの名前を SGD ホストのネットワーク IP アドレスにマップする新規エントリを追加します。SGD ホスト名をローカルのループバック IP アドレスにマップしてはいけません。

- Oracle Linux 6 プラットフォームにインストールするとき、Desktop または Software Development Workstation パッケージグループを選択します。これにより、デフォルトの SGD Webtop に必要なパッケージが確実にインストールされます。必要なパッケージには、グラフィカル管理ツールと、`xterm` や `gnome-terminal` などの X クライアントが含まれます。

あるいは、インストール中に別のパッケージグループを選択し、「今すぐカスタマイズ」オプションを使用して、必要なパッケージを Desktops カテゴリから追加することもできます。

2.1.2.1.3. 5250 および 3270 アプリケーション

5250 および 3270 アプリケーションをサポートするには次の変更が必要です。

- Linux プラットフォーム。libXm.so.3 ライブラリが必要です。このライブラリは OpenMotif 2.2 パッケージで提供されています。
- Solaris 11 プラットフォーム。次のように **motif** パッケージをインストールします。

```
# pkg install motif
```

2.1.2.2. 仮想化のサポート

SGD でサポートされるインストールプラットフォームは、Type 1 (ベアメタル) ハイパーバイザまたは Type 2 (ホスト) ハイパーバイザでサポートされます。たとえば、Oracle VM VirtualBox、VMWare、Oracle VM Server for SPARC (以前は Sun Logical Domains や LDoms と呼ばれた) などです。

ゾーンへのインストールは Oracle Solaris プラットフォームでサポートされています。SGD は、大域ゾーンか、1 つ以上の非大域ゾーンのいずれかにインストールできます。大域ゾーンと非大域ゾーンの両方へのインストールはサポートされていません。

Oracle Solaris Trusted Extensions プラットフォームでは、SGD をラベル付きゾーンにインストールする必要があります。大域ゾーンには SGD をインストールしないでください。

2.1.2.3. サポートされなくなった SGD インストールプラットフォーム

次の表に、サポートされなくなった SGD インストールプラットフォームを示します。

SGD のバージョン	サポートされなくなったプラットフォーム
4.70	Red Hat Enterprise Linux 5.5、5.6 Oracle Enterprise Linux 5.5、5.6 Oracle Solaris 10 から Solaris 10 9/10 (update 9) まで
4.60	OpenSolaris (全バージョン) Red Hat Enterprise Linux 5.0 - 5.4 Solaris 10 OS から Solaris 10 5/09 (update 7) まで SUSE Linux Enterprise Server 10

2.1.3. サポートされるアップグレードパス

SGD のバージョン 4.70 へのアップグレードは、次のバージョンからに限りサポートされます。

- Oracle Secure Global Desktop Software バージョン 4.62.913
- Oracle Secure Global Desktop Software バージョン 4.61.915
- Oracle Secure Global Desktop Software バージョン 4.60.911

他のバージョンの SGD からアップグレードする場合は、Oracle サポートまでお問い合わせください。

2.1.4. Java テクノロジのバージョン

次の表に、SGD に含まれる JDK のバージョンを示します。

SGD のバージョン	JDK のバージョン
4.70	1.6.0_33
4.62	1.6.0_29

SGD のバージョン	JDK のバージョン
4.61	1.6.0_24
4.60	1.6.0_21

2.1.5. 必要なユーザーと特権

SGD をインストールするには、スーパーユーザー (root) 特権を持っている必要があります。

SGD をインストールする前に、システムに `ttaserv` ユーザーと `ttasys` ユーザー、および `ttaserv` グループが設定されている必要があります。

`ttasys` ユーザーは、SGD サーバーの使用するすべてのファイルおよびプロセスを所有します。`ttaserv` ユーザーは、SGD Web サーバーの使用するすべてのファイルおよびプロセスを所有します。

SGD サーバーの実行には、スーパーユーザー (root) 特権は必要ありません。SGD サーバーは root ユーザーで起動し、その後、`ttasys` ユーザーにダウングレードされます。

これらのユーザーおよびグループが存在しない状態でソフトウェアをインストールしようすると、インストールプログラムはシステムに一切変更を加えずに停止し、実行する必要のある操作をユーザーに通知するメッセージを表示します。このメッセージには、必要なユーザーおよびグループを作成するために実行できるインストールスクリプトの詳細が含まれます。

必要なユーザーおよびグループを手動で作成する必要がある場合の要件は次のとおりです。

- ユーザー名は `ttaserv` および `ttasys` にする必要があります。
- グループ名は `ttaserv` にする必要があります。
- 任意のユーザー ID (UID) またはグループ ID (GID) を使用できます。UID と GID は異なってもかまいません。
- 両方のユーザーが、プライマリグループとして `ttaserv` を保持する必要があります。
- 両方のユーザーが、`/bin/sh` などの有効なシェルを使用可能でなければなりません。
- 両方のユーザーに書き込み可能なホームディレクトリが必要です。
- セキュリティー保護のために、`passwd -l` コマンドなどを使用してこれらのアカウントをロックしてください。

`useradd` および `groupadd` コマンドを使用して、これらのユーザーを作成します。次に例を示します。

```
# groupadd ttaserv
# useradd -g ttaserv -s /bin/sh -d /home/ttasy -m ttasys
# useradd -g ttaserv -s /bin/sh -d /home/ttaser -m ttaserv
# passwd -l ttasys
# passwd -l ttaserv
```

`ttasys` および `ttaserv` ユーザーアカウントがシステムに正しく設定されているかどうかを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
# su ttasys -c "/usr/bin/id -a"
# su ttaserv -c "/usr/bin/id -a"
```

システムが正しく設定されている場合、コマンド出力は次の例のようになります。

```
uid=1002(ttaserv) gid=1000(ttaserv) groups=1000(ttaserv)
uid=1003(ttasys) gid=1000(ttaserv) groups=1000(ttaserv)
```

2.1.6. ネットワークの要件

SGD で使用するネットワークは、次のように構成する必要があります。主な要件には次のようなものがあります。

- ホストは、すべてのクライアントで解決できるドメインネームシステム (DNS) エントリを持っている必要があります。
- ホストの DNS 検索と逆検索が常に成功する必要があります。

- すべてのクライアントデバイスが DNS を使用する必要があります。
- SGD をインストールするときに、SGD サーバーに使用する DNS 名の入力を要求されます。DNS 名は、次の要件を満たす必要があります。
 - ファイアウォールを含むネットワークでは、SGD ホストがファイアウォールの内側で呼ばれている DNS 名を使用します。
 - 必ず SGD ホストの完全指定の DNS 名を使用します。たとえば、boston.example.com です。

『Oracle Secure Global Desktop 管理者ガイド (リリース 4.7 用)』には、SGD が使用するすべてのポートおよび SGD をファイアウォールとともに使用方法に関する詳細な情報が記載されています。一般的に使用されるポートの情報を次に示します。

クライアントデバイスから SGD に、次の TCP ポートで TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 接続を確立できる必要があります。

- 80 - クライアントデバイスと SGD Web サーバーの間の HTTP 接続に使用されます。ポート番号は、インストール時に選択されたポートによって変わります。
- 443 - クライアントデバイスと SGD Web サーバーの間の HTTPS (HTTP over Secure Sockets Layer) 接続に使用されます。
- 3144 - SGD Client と SGD サーバーの間の標準 (暗号化されない) 接続に使用されます。
- 5307 - SGD Client と SGD サーバーの間のセキュリティ保護された接続に使用されます。セキュア接続では SSL (Secure Sockets Layer) が使用されます。



注記

SGD セキュリティサービスが有効になっていて、HTTPS が使用されるセキュアモードでのデフォルトインストールでは、ファイアウォールでポート 443 と 5307 のみを開いてください。

接続がセキュリティ保護されていない標準モードでのインストールの場合、ファイアウォールのポート 80、3144、および 5307 を空けておく必要があります。これは、SGD Client では初期状態でセキュア接続がポート 5307 で確立されるためです。接続が確立されたあと、接続はポート 3144 の標準接続にダウングレードされます。

アプリケーションを実行するには、SGD はアプリケーションサーバーに対して TCP/IP 接続を確立できる必要があります。アプリケーションの種類によって、開く必要のある TCP ポートが決まります。次に例を示します。

- 22 - SSH (Secure Shell) を使う X アプリケーションと文字型アプリケーション用です
- 23 - Telnet を使う Windows アプリケーション、X アプリケーション、および文字型アプリケーション用です
- 3389 - Windows リモートデスクトップサービスを使う Windows アプリケーション用です
- 6010 以上 - X アプリケーション用です

2.1.7. 時刻の同期

SGD では、アレイとは、構成情報を共有する一連の SGD サーバーを指します。アレイ内の SGD サーバーはユーザーセッションとアプリケーションセッションに関する情報を共有するため、SGD ホストの時刻を同期させることが重要です。時間情報プロトコル (NTP) ソフトウェアまたは [rdate](#) コマンドを使用して、すべての SGD ホストの時刻を確実に同期させてください。

2.1.8. SGD Web サーバー

SGD Web サーバーは、SGD で使用するために事前構成された、Apache Web サーバーと Tomcat JavaServer Pages (JSP) テクノロジコンテナで構成されます。

SGD Web サーバーはいくつかのコンポーネントで構成されています。次の表に、SGD の最近のリリースについての Web サーバーコンポーネントのバージョンを一覧表示します。

コンポーネント名	SGD バージョン 4.70	SGD バージョン 4.62	SGD バージョン 4.61	SGD バージョン 4.60
Apache HTTP サーバー	2.2.22	2.2.21	2.2.17	2.2.16
OpenSSL	1.0.0.j	1.0.0.e	1.0.0.d	1.0.0a
mod_jk	1.2.37	1.2.32	1.2.31	1.2.27
Apache Jakarta Tomcat	7.0.29	6.0.33	6.0.32	6.0.29
Apache Axis	1.4	1.4	1.4	1.4

Apache Web サーバーには、すべての標準 Apache モジュールが共有オブジェクトとして含まれています。

Tomcat JSP テクノロジコンテナ用の Java Virtual Machine (JVM) ソフトウェアの最小ヒープサイズは、256M バイトです。

2.1.9. サポートされる認証メカニズム

SGD にアクセスするユーザーを認証するために、次のメカニズムがサポートされています。

- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) version 3
- Microsoft Active Directory
- ネットワーク情報サービス (NIS)
- RSA SecurID
- Web サーバー認証 (HTTP/HTTPS 基本認証)。公開鍵インフラストラクチャー (PKI) クライアント証明書も含む

2.1.9.1. Active Directory のサポート対象バージョン

Active Directory 認証と LDAP 認証は、次のバージョンの Active Directory でサポートされます。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2003 R2
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2

2.1.9.2. サポートされる LDAP ディレクトリ

SGD では、version 3 の標準 LDAP プロトコルがサポートされます。LDAP 認証は、LDAP version 3 に準拠する任意のディレクトリサーバーとともに使用できます。ただし、SGD は次のディレクトリサーバーのみをサポートします。

- Oracle Internet Directory 11gR1 (すべての 11.1.1.x.0 リリース)
- Oracle Directory Server Enterprise Edition バージョン 11gR1
- 「[Active Directory のサポート対象バージョン](#)」に示す Microsoft Active Directory
- Sun Directory Server 6.3 以降

その他のディレクトリサーバーでも機能する可能性があります、サポートされていません。

Novell eDirectory は LDAP ディレクトリサーバーとしてサポートされなくなりました。

2.1.9.3. サポートされている SecurID バージョン

SGD は、version 4、5、6、および 7 の Authentication Manager (従来の RSA ACE/Server) で動作します。

SGD は、システムが生成した PIN とユーザーが作成した PIN をサポートします。

2.1.10. SSL のサポート

SGD は、TLS バージョン 1.0 と SSL バージョン 3.0 をサポートしています。

SGD は、PEM (Privacy Enhanced Mail) Base 64 で符号化された X.509 証明書をサポートしています。このような証明書は、次のような構造になっています。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
...certificate...
-----END CERTIFICATE-----
```

SGD は SSL 証明書の Subject Alternative Name ([subjectAltName](#)) 拡張をサポートします。また SGD は、[*.example.com](#) のように、ドメイン名の最初の部分でワイルドカード `*` の使用をサポートします。

SGD では、いくつかの認証局 (Certificate Authority, CA) がサポートされています。[/opt/tarantella/etc/data/cacerts.txt](#) ファイルには、SGD でサポートされるすべての CA 証明書の X.509 識別名 (DN) および MD5 シグニチャーが含まれています。サポートされていない CA によって署名されている SSL 証明書をサポートするには、追加設定が必要です。中間 CA がサポートされていますが、チェーンの証明書のいずれかがサポートされていない CA によって署名されている場合は、追加設定が必要です。

SGD では、追加構成によって外部ハードウェア SSL アクセラレータの使用がサポートされています。

SGD では、次の暗号化方式群がサポートされています。

- RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA
- RSA_WITH_RC4_128_SHA
- RSA_WITH_RC4_128_MD5
- RSA_WITH_DES_CBC_SHA

2.1.11. 印刷サポート

SGD は、PDF 印刷とプリンタ直接印刷という 2 種類の印刷をサポートしています。

PDF 印刷では、SGD は [Ghostscript](#) を使用して印刷ジョブを PDF (Portable Document Format) ファイルに変換します。Ghostscript ディストリビューションに [ps2pdf](#) プログラムが含まれている必要があります。最良の結果を得るためには、最新バージョンの Ghostscript を SGD ホストにインストールします。

SGD では、ユーザーのクライアントデバイスに接続されている PostScript、PCL (Printer Command Language)、およびテキスト専用プリンタへのプリンタ直接印刷がサポートされています。SGD の [tta_print_converter](#) スクリプトは、印刷ジョブをクライアントプリンタ用に正しくフォーマットするために必要なすべての変換を実行します。[tta_print_converter](#) スクリプトは、Ghostscript を使って、PostScript 形式から PCL 形式に変換します。この変換をサポートするためには、Ghostscript を SGD サーバーにインストールする必要があります。最良の結果を得るために、追加フォントをダウンロードしてインストールしてください。

SGD ソフトウェアには、Ghostscript は含まれていません。

2.2. クライアントデバイスの要件とサポート

このセクションでは、クライアントデバイスについてのサポートされるプラットフォームおよび要件について説明します。

2.2.1. サポートされるクライアントプラットフォーム

次の表に、SGD Client でサポートされるクライアントプラットフォームおよびブラウザの一覧を示します。



注意

SGD Client のクライアントプラットフォームは、完全なデスクトップオペレーティングシステムである必要があります。ブラウザなどの個別アプリケーションは、サポートされるクライアントプラットフォームではありません。

サポートされるクライアントプラットフォーム	サポートされるブラウザ
Microsoft Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット) ^a	Internet Explorer 8 Internet Explorer 9 Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
Microsoft Windows XP Professional SP3 (32 ビット)	Internet Explorer 7 Internet Explorer 8 Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
SPARC プラットフォーム上の Oracle Solaris Solaris 10 8/11 (update 10)、Solaris 11	Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
x86 プラットフォーム上の Oracle Solaris Solaris 10 8/11 (update 10)、Solaris 11	Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
SPARC プラットフォーム上の Oracle Solaris Trusted Extensions Solaris 10 8/11 (update 10)、Solaris 11	Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
x86 プラットフォーム上の Oracle Solaris Trusted Extensions Solaris 10 8/11 (update 10)、Solaris 11	Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
Mac OS X 10.6 (最新バージョン) および 10.7 ^b	Safari 5 Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
Oracle Linux 5.7、5.8、6.2、6.3 (32 ビットおよび 64 ビット)	Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17
Ubuntu 10.04、12.04 (32 ビットおよび 64 ビット)	Mozilla Firefox 3.6、10.0.3:ESR、11 Chrome 17

^a 64 ビットクライアントプラットフォーム上では、32 ビットバージョンと 64 ビットバージョンの Internet Explorer がサポートされます。

^b Mac OS X 10.8 はクライアントプラットフォームとしてサポートされません。

Oracle Linux に準拠した Oracle 製品は、両ディストリビューション間での暗黙の互換性により、Red Hat Enterprise Linux でもサポートされます。Oracle は Red Hat Enterprise Linux 製品上で追加のテストを行っていません。

Safari ブラウザでは SGD Administration Console はサポートされていません。

ベータ版やプレビュー版のブラウザはサポートされません。

ブラウザで JavaScript プログラミング言語が有効になっている必要があります。

次の機能をサポートするには、ブラウザで Java テクノロジを有効にする必要があります。

- SGD Client を自動的にダウンロードしてインストールします

- ユーザーのデフォルトブラウザからプロキシサーバーの設定を調べます

Java テクノロジを利用できない場合でも、SGD Client を手動でダウンロードしてインストールできます。サポートされているすべてのクライアントプラットフォームで、手動インストールが可能です。

Java Plug-in ソフトウェアバージョン 1.6 のみが Java テクノロジのプラグインとしてサポートされています。



注意

既知の問題により、Java Plug-in ソフトウェアバージョン 1.7 は、このリリースでサポートされません。Oracle Support に報告するすべての問題は、Java Plug-in ソフトウェアバージョン 1.6 を使用して再現できることを確認してください。

適切に表示するには、クライアントデバイスを少なくとも数千色に構成する必要があります。

SGD Client および Webtop は、次のサポート対象言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- スペイン語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)

2.2.1.1. 仮想化のサポート

SGD でサポートされる Client プラットフォームは、Type 1 (ベアメタル) ハイパーバイザまたは Type 2 (ホスト) ハイパーバイザでサポートされます。たとえば、Oracle VM VirtualBox、VMWare、Oracle VM Server for SPARC (以前は Sun Logical Domains や LDoms と呼ばれた) などです。

2.2.1.2. サポートされなくなった Client プラットフォーム

次の表に、サポートされなくなった SGD Client インストールプラットフォーム、ブラウザ、および Java Plugin ツールを示します。

SGD のバージョン	サポートされなくなったプラットフォーム
4.70	Microsoft Windows Vista Red Hat Enterprise Linux 5.5 Desktop Oracle Solaris 10 から 9/10 (update 9) まで Safari 4
4.60	Mac OS X 10.5 OpenSolaris (全バージョン) Red Hat Enterprise Linux Desktop 5.0 - 5.4 Solaris 10 OS から 5/09 (update 7) まで

SGD のバージョン	サポートされなくなったプラットフォーム
	Ubuntu 8 Firefox 2 Internet Explorer 6 Safari 2 Safari 3 Java Plugin ツール version 1.5

2.2.2. サポートされているプロキシサーバー

プロキシサーバーを使用して SGD に接続するには、プロキシサーバーがトンネリングをサポートしている必要があります。HTTP、Secure (SSL)、または SOCKS version 5 プロキシサーバーを使用できます。

SOCKS version 5 プロキシサーバーの場合、「基本」および「無認証要求」認証方式が SGD でサポートされます。サーバー側の設定は必要ありません。

2.2.3. PDF 印刷のサポート

PDF 印刷を使用できるようにするには、クライアントデバイスに PDF ビューアをインストールする必要があります。SGD は、デフォルトでは次の PDF ビューアをサポートしています。

クライアントプラットフォーム	デフォルトの PDF ビューア
Microsoft Windows プラットフォーム	Adobe Reader version 4.0 以降
SPARC プラットフォーム上の Oracle Solaris	GNOME PDF Viewer (gpdf) Adobe Reader (acroread)
x86 プラットフォーム上の Oracle Solaris	GNOME PDF Viewer (gpdf)
Oracle Linux	GNOME PDF Viewer (gpdf) Evince Document Viewer (evince) X PDF Reader (xpdf)
Mac OS X	Preview App (/Applications/Preview.app)



注記

Adobe Reader PDF ビューアが、[-openInNewWindow](#) コマンドオプションをサポートしている必要があります。Preview App PDF ビューアが [open -a](#) コマンドオプションをサポートしている必要があります。

サポートされている PDF ビューアを使用するには、そのアプリケーションがユーザーの [PATH](#) 上に存在する必要があります。

代替 PDF ビューアのサポートは、ユーザーのクライアントプロファイルで構成できます。

2.2.4. サポートされるスマートカード

SGD は、Microsoft Remote Desktop サービスでの使用がサポートされているすべての PC/SC (Personal Computer/ Smart Card) 準拠のスマートカードおよびリーダーとともに動作します。

2.3. SGD Gateway の要件とサポート

このセクションでは、SGD Gateway についてのサポートされるプラットフォームおよび要件について説明します。

2.3.1. SGD Gateway でサポートされるインストールプラットフォーム

SGD Gateway ホストのインストールプラットフォームとしてサポートされているものを次の表に示します。

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
SPARC プラットフォーム上の Oracle Solaris	Solaris 10 8/11 (update 10) Solaris 11
x86 プラットフォーム上の Oracle Solaris	Solaris 10 8/11 (update 10) Solaris 11
Oracle Linux (32 ビットおよび 64 ビット)	5.7 5.8 6.2 6.3

Oracle Linux に準拠した Oracle 製品は、両ディストリビューション間での暗黙の互換性により、Red Hat Enterprise Linux でもサポートされます。Oracle は Red Hat Enterprise Linux 製品上で追加のテストを行っていません。

SGD Gateway は、デフォルトで、最大 100 の HTTP 同時接続と最大 512 の AIP (Adaptive Internet Protocol) 同時接続をサポートするように構成されています。JVM のメモリーサイズは、この接続数に対して最適化されます。『オラクル Secure Global Desktop Gateway 管理者ガイド (リリース 4.7 用)』の付録 C に、予測ユーザー数に対して Gateway を調整する方法が記載されています。

2.3.1.1. 仮想化のサポート

SGD Gateway でサポートされるインストールプラットフォームは、Type 1 (ベアメタル) ハイパーバイザまたは Type 2 (ホスト) ハイパーバイザでサポートされます。たとえば、Oracle VM VirtualBox、VMWare、Oracle VM Server for SPARC (以前は Sun Logical Domains や LDoms と呼ばれた) などです。

Oracle Solaris プラットフォームでは、ゾーンへのインストールがサポートされています。SGD Gateway を、大域ゾーンか、1 つ以上の非大域ゾーンのいずれかにインストールできます。大域ゾーンと非大域ゾーンの両方へのインストールはサポートされていません。

2.3.1.2. サポートされなくなった Gateway インストールプラットフォーム

次の表に、サポートされなくなった SGD Gateway インストールプラットフォームを示します。

SGD のバージョン	サポートされなくなったプラットフォーム
4.70	Oracle Solaris 10 から 9/10 (update 9) まで Red Hat Enterprise Linux 5.5 Oracle Enterprise Linux 5.5
4.60	OpenSolaris (全バージョン) Red Hat Enterprise Linux 5.0 - 5.4 Solaris 10 OS から 5/09 (update 7) まで SUSE Linux Enterprise Server 10

2.3.2. SGD Gateway の SGD サーバー要件

SGD Gateway とともに使用される SGD サーバーには、次の要件が適用されます。

- セキュアモード。デフォルトでは、SGD Gateway では SGD サーバーへのセキュア接続が使用されます。SGD サーバーでセキュア接続を有効にする必要があります。ファイアウォールの転送が無効になっている必要があります。

標準インストールでは、SGD サーバーはセキュア接続を使用するように自動的に構成されます。

- SGD のバージョン。SGD サーバーでは SGD のバージョン 4.5 以降が実行されている必要があります。バージョン 4.7 の Gateway を使用するのが最適です。
- クロックの同期。SGD サーバーと SGD Gateway のシステムクロックが同期していることが重要です。時間情報プロトコル (NTP) ソフトウェアまたは `rddate` コマンドを使用して、クロックが同期していることを確認してください。

2.3.3. Apache Web Server

SGD Gateway に付属の Apache Web サーバーは、Apache version 2.2.22 です。Apache Web サーバーには、逆プロキシと負荷分散のために標準の Apache モジュールが含まれています。モジュールは DSO (Dynamic Shared Object) モジュールとしてインストールされます。

2.3.4. Java テクノロジーのバージョン

SGD Gateway には、Java Runtime Environment (JRE) version 1.6.0_33 が含まれています。

2.3.5. SSL のサポート

SGD Gateway 用の SSL サポートは、Gateway に付属する Java Runtime Environment (JRE) によって提供されます。詳細は、[Java プラットフォームのドキュメント](#)を参照してください。

SGD Gateway は、Privacy Enhanced Mail (PEM) Base 64 でエンコードされた X.509 証明書をサポートしています。このような証明書は、次のような構造になっています。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
...certificate...
-----END CERTIFICATE-----
```

SGD Gateway では、追加構成によって外部ハードウェア SSL アクセラレータの使用がサポートされています。

デフォルトでは、SGD Gateway は、次に示す SSL 接続用のハイグレード暗号化方式群をサポートするように構成されています。

- SSL_RSA_WITH_RC4_128_MD5
- SSL_RSA_WITH_RC4_128_SHA
- TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_DHE_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA
- TLS_DHE_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA
- SSL_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA
- SSL_DHE_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA
- SSL_DHE_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA

次の暗号化方式群もサポートされますが、『Oracle Secure Global Desktop Gateway 管理者ガイド (リリース 4.7 用)』に示すようにユーザーによって構成される必要があります。

- SSL_RSA_WITH_DES_CBC_SHA
- SSL_DHE_RSA_WITH_DES_CBC_SHA
- SSL_DHE_DSS_WITH_DES_CBC_SHA
- SSL_RSA_EXPORT_WITH_RC4_40_MD5
- SSL_RSA_EXPORT_WITH_DES40_CBC_SHA
- SSL_DHE_RSA_EXPORT_WITH_DES40_CBC_SHA
- SSL_DHE_DSS_EXPORT_WITH_DES40_CBC_SHA

2.4. アプリケーション要件とサポート

このセクションでは、アプリケーションを SGD 経由で表示するためのサポートされるプラットフォームおよび要件について説明します。

2.4.1. サポートされるアプリケーション

SGD を使用すると、次に示す種類のアプリケーションにアクセスできます。

- Microsoft Windows
- Oracle Solaris、Linux、HP-UX、および AIX アプリケーションサーバー上で実行されている X アプリケーション
- Oracle Solaris、Linux、HP-UX、および AIX アプリケーションサーバー上で実行されている文字型アプリケーション
- IBM メインフレームおよび AS/400 システム上で実行されているアプリケーション
- HTML と Java テクノLOGYを使用している Web アプリケーション

SGD では、次のプロトコルがサポートされます。

- Microsoft リモートデスクトッププロトコル (RDP) version 5.2 以降
- X11
- HTTP
- HTTPS
- SSH version 2 以降
- Telnet VT、American National Standards Institute (ANSI)
- TN3270E
- TN5250

2.4.2. SGD 拡張モジュールでサポートされるインストールプラットフォーム

SGD 拡張モジュールは、アプリケーションサーバーにインストールできるソフトウェアコンポーネントであり、SGD 経由で表示されるアプリケーションを使用している場合は次の追加機能を提供します。

- 高度な負荷分散
- クライアントドライブマッピング (UNIX または Linux プラットフォームのみ)

- ・ シームレスウィンドウ (Windows プラットフォームのみ)
- ・ オーディオ (UNIX または Linux プラットフォームのみ)

次の表に、SGD 拡張モジュールでサポートされるインストールプラットフォームを示します。

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
Microsoft Windows (64 ビット)	Windows Server 2008 R2
Microsoft Windows (32 ビットおよび 64 ビット)	Windows Server 2008 Windows Server 2003 R2 Windows Server 2003
SPARC プラットフォーム上の Oracle Solaris	Solaris 8、9、10、11 Solaris Trusted Extensions 10、11
x86 プラットフォーム上の Oracle Solaris	Solaris 10、11 Solaris Trusted Extensions 10、11
Oracle Linux (32 ビットおよび 64 ビット)	5, 6
SUSE Linux Enterprise Server (32 ビットおよび 64 ビット)	10, 11

Oracle Linux に準拠した Oracle 製品は、両ディストリビューション間での暗黙の互換性により、Red Hat Enterprise Linux でもサポートされます。Oracle は Red Hat Enterprise Linux 製品上で追加のテストを行なっていません。

Oracle Solaris Trusted Extensions プラットフォームでは、高度な負荷分散のみがサポートされています。オーディオや CDM はサポートされていません。

アプリケーションサーバーが SGD 拡張モジュールでサポートされないプラットフォームの場合でも、SGD ではそれらを使用することができ、サポートされるプロトコルのいずれかを使用してサポートされるアプリケーションタイプにアクセスできます。

2.4.2.1. 仮想化のサポート

SGD 拡張モジュールでサポートされるインストールプラットフォームは、Type 1 (ベアメタル) ハイパーバイザまたは Type 2 (ホスト) ハイパーバイザでサポートされます。たとえば、Oracle VM VirtualBox、VMWare、Oracle VM Server for SPARC (以前は Sun Logical Domains や LDoms と呼ばれた) などです。

ゾーンへのインストールは Oracle Solaris プラットフォームでサポートされています。SGD は、大域ゾーンか、1 つ以上の非大域ゾーンにインストールできます。大域ゾーンと非大域ゾーンの両方へのインストールはサポートされていません。

Oracle Solaris Trusted Extensions プラットフォームでは、SGD をラベル付きゾーンにインストールする必要があります。大域ゾーンには SGD をインストールしないでください。

2.4.2.2. SGD 拡張モジュールでサポートされなくなったインストールプラットフォーム

次の表に、SGD 拡張モジュールでサポートされなくなったインストールプラットフォームを示します。

SGD のバージョン	サポートされなくなったプラットフォーム
4.70	Red Hat Enterprise Linux 5
4.60	OpenSolaris (全バージョン) Windows Vista Business Windows Vista Professional Windows XP Professional



注記

SGD 拡張モジュールは、Windows 7 および Windows XP プラットフォームでサポートされる機能を提供しなくなりました。これらのプラットフォームは、アプリケーションサーバープラットフォームとして引き続きサポートされます。「[Microsoft Windows リモートデスクトップサービス](#)」を参照してください。

2.4.3. Microsoft Windows リモートデスクトップサービス

SGD には、Microsoft Windows リモートデスクトップサービスのライセンスは含まれていません。Microsoft オペレーティングシステム製品によって提供されるリモートデスクトップサービス機能にアクセスする場合は、このような製品を使用するための追加のライセンスを購入する必要があります。使用している Microsoft オペレーティングシステム製品のライセンス契約書を参照して、入手する必要のあるライセンスを確認してください。



注記

Microsoft Windows Server 2008 R2 以前では、リモートデスクトップサービスはターミナルサービスと呼ばれていました。

SGD では、次の Microsoft Windows のバージョンへの RDP 接続がサポートされています。

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2008
- Windows Server 2003 R2
- Windows Server 2003
- Windows 7 SP1
- Windows XP Professional SP3

Windows 7 および Windows XP プラットフォームでは、完全な Windows デスクトップセッションのみがサポートされています。個々のアプリケーションの実行はサポートされていません。シームレスウィンドウもサポートされません。

SGD によってサポートされる機能は、次の表に示すように、RDP または Oracle VM VirtualBox RDP (VRDP) のいずれを使用して接続したかによって異なります。

表2.1 RDP と VRDP を使用した場合に SGD によってサポートされる機能の比較

機能	RDP	VRDP
オーディオの録音 (入力オーディオ)	✓	✓
オーディオのリダイレクト	✓	✓
クリップボードのリダイレクト	✓	✓
COM ポートマッピング	✓	✗
圧縮	✓	✗
ドライブのリダイレクト (クライアントドライブマッピング)	✓	✗
マルチモニター	✓	✗
ネットワークセキュリティ (暗号化レベル)	✓	✓
セッションディレクトリ	✓	✗
スマートカードデバイスのリダイレクト	✓	✗
タイムゾーンのリダイレクト	✓	✗
Windows プリンタマッピング (クライアント印刷)	✓	✗

2.4.3.1. オーディオの音質

Windows Server 2008 R2 および Windows 7 では、最大 44.1kHz のオーディオビットレートがサポートされています。SGD では、デフォルトで最大 22.05kHz のビットレートがサポートされています。最大 44.1kHz のビットレートをサポートするには、Administration Console で「グローバル設定」、「クライアントデバイス」タブに移動し、「Windows オーディオ: 高品質」オプションを選択します。

2.4.3.2. オーディオ録音リダイレクト

オーディオ録音リダイレクトは、Microsoft Windows Server 2008 R2 および Microsoft Windows 7 アプリケーションサーバーでサポートされています。

Windows リモートデスクトップサービスセッションでオーディオを記録するには、アプリケーションサーバー上でオーディオ録音リダイレクトが有効になっている必要があります。デフォルトでは、オーディオ録音リダイレクトは無効になっています。

Microsoft Windows 7 Enterprise アプリケーションサーバーのオーディオ録音を使用可能にするには、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal Server\WinStations\RDP-Tcp` キーに次のレジストリ項目を追加する必要があります。

```
"fDisableAudioCapture"=dword:00000000
```

2.4.3.3. 発色数

SGD は、Windows リモートデスクトップサービスセッションで 8 ビット、16 ビット、24 ビット、および 32 ビットの発色数をサポートしています。

32 ビットカラーは、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、および Windows 7 プラットフォーム上で使用できます。32-ビットの色を表示するには、クライアントデバイスは 32-ビットの色を表示できる必要があります。

15 ビットの発色数はサポートされていません。この発色数がリモートデスクトップセッションホスト上で指定された場合、SGD は発色数を 8 ビットに自動的に調整します。

2.4.3.4. 暗号化レベル

SGD では、「低」、「クライアント互換」、または「高」暗号化レベルのみを使用できます。SGD は、FIPS (Federal Information Processing Standards) 暗号化レベルをサポートしていません。

2.4.3.5. Transport Layer Security

Microsoft Windows Server 2003 以降、サーバーの認証および リモートデスクトップセッションホスト 通信の暗号化にトランスポート層セキュリティ (TLS) を使用できます。

2.4.3.6. ネットワークレベル認証

リモートデスクトップセッションホストが CredSSP を使用したネットワークレベル認証 (NLA) をサポートしている場合は、サーバー認証に NLA を使用できます。

2.4.4. X アプリケーションと文字型アプリケーション

X アプリケーションと文字型アプリケーションを実行するには、SGD は、アプリケーションをホストするアプリケーションサーバーに接続する必要があります。SGD は通信方式として SSH および Telnet をサポートします。セキュリティ保護のためには SSH が最適です。

SGD は、SSH version 2 以降で動作します。SSH バージョンには互換性の問題があるため、すべての SGD ホストとアプリケーションサーバー上で同じメジャーバージョンの SSH (version 2 または version 3 のどちらか) を使用してください。

X アプリケーションへの接続に SSH を使用する場合は、X11 転送を有効にする必要があります。これは、SSH の構成を使用するか、SGD でアプリケーションを構成することによって実行できます。SGD で SSH を使用することについての詳細は、『Oracle Secure Global Desktop 管理者ガイド (リリース 4.7 用)』に記載されています。

SGD は、X セキュリティー拡張機能をサポートしています。X セキュリティー拡張機能は、[-Y](#) オプションをサポートする SSH のバージョンでのみ機能します。OpenSSH の場合、これは 3.8 以降のバージョンです。

2.4.4.1. X11 ソフトウェア

SGD には、X.Org Foundation X サーバーリリース X11R7.6 に基づく X プロトコルエンジン (XPE) 実装が含まれています。

XPE 実装は、次の X.org foundation ソースに基づいています。

- [xorg-server 1.9.3](#)
- [xrandr 1.3](#)
- [xkeyboard-config 2.1](#)

X.org 依存関係の次のバージョンが使用されます。

- [Mesa 7.9.2](#)
- [pixman 0.20.2](#)

2.4.4.2. サポートされる X の拡張機能

SGD は、X アプリケーションに対する次の X の拡張機能をサポートしています。

- BIG-REQUESTS
- BLINK
- DAMAGE
- DEC-XTRAP
- DOUBLE-BUFFER
- Extended-Visual-Information
- GLX
- MIT-SCREEN-SAVER
- MIT-SHM
- MIT-SUNDRY-NONSTANDARD
- NATIVE-WND
- RDP
- RECORD
- RENDER
- SCO-MISC
- SECURITY
- SGI-GLX
- SHAPE
- SYNC
- TOG-CUP

- X-Resource
- XC-APPGROUP
- XC-MISC
- XFIXES
- XFree86-Bigfont
- XTEST
- XTTDEV
- KEYBOARD
- RANDR
- XINERAMA

次の X 拡張機能はサポートしていません。

- XVIDEO

2.4.4.3. 文字型アプリケーション

SGD は、VT420、Wyse 60、または SCO コンソールの文字型アプリケーションをサポートしています。

2.4.5. Virtual Desktop Infrastructure

SGD は動的アプリケーションサーバーと呼ばれるオブジェクトのタイプを使用して、仮想サーバーブローカ (VSB) を表現します。SGD は VSB を使用して、アプリケーションを実行できるアプリケーションサーバーの一覧を取得します。

SGD には、Oracle Virtual Desktop Infrastructure (Oracle VDI) サーバーによって提供されるデスクトップへのアクセスをユーザーに提供するブローカが含まれています。

Oracle VDI との統合は、『オラクル Secure Global Desktop 管理者ガイド (リリース 4.7 用)』に記載されているように、Windows アプリケーションオブジェクトを構成することによってもサポートされます。

SGD のこのリリースでは、次のバージョンの Oracle VDI がサポートされています。

- Oracle VDI 3.4.1
- Oracle VDI 3.3.2

2.5. 除去された機能

次の機能は 4.70 リリースで除去されました。

- CALs ライセンスプール。Windows 以外のクライアントデバイス用の Client Access License (CAL) は SGD サーバー上のライセンスプールに保管されなくなりました。ライセンスプールの管理に使用される `tarantella tscal` コマンドは、使用できません。
- ローカル起動。Windows クライアントデバイス上でアプリケーションを実行するためのサポート (ローカル起動と呼ばれる) が削除されました。ローカルクライアント起動 (`--trylocal`) 属性は、非推奨です。

`localx` 設定は、ウィンドウタイプ (`--displayusing`) 属性でサポートされなくなりました。

ローカル X サーバーのチェックのプロファイル設定は使用できません。

- Windows ドメイン認証。Windows ドメイン認証は、SGD ユーザーを認証する方式としてサポートされなくなりました。Windows ドメインコントローラ (`--login-nt`) 属性は非推奨です。

Windows ドメイン認証に代わりに Active Directory 認証を使用できます。

- [rexec](#) を使用したアプリケーションの起動。 [rexec](#) は、接続方法 (`--method`) 属性のオプションとしてサポートされなくなりました。
- 属性の表示。次の X プロトコルエンジン (XPE) および X 表示属性が非推奨になりました。
 - RGB データベース (`--xpe-rgbdatabase`)。XPE は X11 色名の組み込みサポートを提供します。
 - ユーロ文字 (`--euro`)。ユーロ文字がデフォルトでサポートされるようになりました。
 - キーボードマップ: ロック (`--lockkeymap`)。キーボードサポートに XKB 拡張が使用できるようになりました。
 - キーボードマップ (`--xpe-keymap`)。キーボードサポートに XKB 拡張が使用できるようになりました。
 - キーボードマップ (`--keymap`)。この属性は、コマンド行を使用してのみ利用できます。

2.5.1. SGD の次回リリースでの変更

次の SGD 機能は、次のリリースの SGD では使用できない可能性があります。

- サポートされるクライアントプラットフォームおよびブラウザ: Ubuntu Linux10.04 および Mac OS X 10.6 は、クライアントプラットフォームとしてサポートされない可能性があります。Mac OS X 10.8 のサポートが次のリリースで追加されます。

ブラウザは、Internet Explorer 7 がサポートされない可能性があります。
- LDAP ディレクトリサーバー: Sun Directory Server がサポートされない可能性があります。
- SGD 負荷分散 JSP ([swcd.jsp](#)): SGD Gateway により、負荷分散された配備のためのソリューションが、さらに優れたものになります。
- SGD へのアクセス時に、ブラウザの Cookie がオプションで使用されます。
- SecurID 認証: 代わりに、サードパーティーの認証による RSA Authentication Agent を使用してください。
- SGD Client 用の統合モード。
- [tarantella cache](#) コマンド。

第3章 既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題

この章では、オラクル Secure Global Desktop (SGD) の既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題について説明します。フィードバックの提供やバグの報告の詳細についても記載されています。

3.1. 既知のバグと問題

このセクションでは、SGD 4.70 リリースの既知のバグと問題を一覧表示します。

3.1.1. 2205237 – 切断されたセッションを再起動するとシームレスウィンドウの表示に問題がある

問題: ユーザーが Windows アプリケーションを閉じたあとに再起動すると、シームレスウィンドウの問題が発生することがあります。この問題は、アプリケーションが Windows Server 2008 R2 サーバーにホストされているときに見られます。

原因: 一部のバージョンの SGE 拡張モジュールに関する既知の問題です。

解決策: Windows アプリケーションサーバー上で実行している SGD 拡張モジュールのバージョンが、SGD サーバーのバージョンと同じであることを確認してください。

3.1.2. 6555834 - Java テクノロジがブラウザでは有効になっているが、クライアントデバイスにインストールされていない

問題: Java テクノロジがブラウザの設定で有効になっていても、Java Plug-in ソフトウェアがクライアントデバイスにインストールされていない場合、SGD Webtop は表示されません。ログインプロセスはスプラッシュ画面で停止します。

原因: SGD は、ブラウザの設定を使って、Java テクノロジを使用するかどうかを決定します。

解決策: Java Plug-in ソフトウェアをインストールし、ブラウザのプラグインディレクトリから Java 仮想マシン (JVM) ソフトウェアの格納場所へのシンボリックリンクを作成します。詳細については、ブラウザのマニュアルを参照してください。

3.1.3. 6831480 - バックアッププライマリリストコマンドがエラーを返す

問題: 停止後にアレイから切り離された SGD サーバー上で `tarantella array list_backup primaries` コマンドを使用すると、「Failed to connect」エラーが返されます。

原因: 既知の問題点です。

解決策: `tarantella array list_backup primaries` コマンドを使用する前に、切り離された SGD サーバーを再起動します。

3.1.4. 6863153 - 再配置された Windows デスクトップセッションで HyperTerminal アプリケーションがハングする

問題: Windows デスクトップセッションで HyperTerminal アプリケーションを実行すると、別のクライアントデバイスからデスクトップセッションを再開しようとしたときに問題が発生します。HyperTerminal アプリケーションは応答せず、終了できません。

原因: 別のクライアントデバイスから Windows デスクトップセッションを再開したときの、HyperTerminal の既知の問題です (「セッショングラブ」とも呼ばれます)。

解決策: 別のクライアントデバイスから Windows デスクトップセッションを再開する前に、HyperTerminal アプリケーションを終了します。

3.1.5. 6937146 - 64 ビット Linux アプリケーションサーバーでホストされる X アプリケーションでオーディオが使用できない

問題: 64 ビット Linux アプリケーションサーバーでホストされる X アプリケーションで、オーディオが再生されない場合があります。この問題は、`/dev/dsp` または `/dev/audio` デバイスを使用するハードコードされた X アプリケーションで発生し、「Audio Redirection Library」(`--unixaudiopreload`) 属性が有効になっています。

原因: 既知の問題点です。64 ビットの SGD Audio Redirection Library は、SGD 拡張モジュールに含まれていません。

解決策: 現在のところ、既知の解決策はありません。

3.1.6. 6942981 - Solaris Trusted Extensions でアプリケーションの起動に時間がかかる

問題: Oracle Solaris Trusted Extensions プラットフォームで、Windows アプリケーションおよび X アプリケーションの起動に予想以上に時間がかかる場合があります。

原因: デフォルトでは、X プロトコルエンジンが X ディスプレイポート 10 に接続しようとします。このポートは、Solaris Trusted Extensions の使用時には使用できません。しばらくすると、X プロトコルエンジンが別の X ディスプレイポートに接続し、アプリケーションは正常に起動します。

解決策: 次のいずれかを実行します。

- SGD サーバーによって使用されるデフォルトの最小ディスプレイポートを変更します。

SGD サーバーの `/opt/tarantella/var/serverconfig/local` ディレクトリにある `xpe.properties` ファイルで次の設定を構成します。

```
tarantella.config.xpeconfig.defaultmindisplay=11
```

変更後、SGD サーバーを再起動します。

- 使用できないポートを X プロトコルエンジンで使用されないように除外します。

Administration Console で、アレイ内の各 SGD サーバーの「プロトコルエンジン」、「X」タブに移動し、「コマンド行引数」フィールドに `-xport portnum` と入力します。ここで、`portnum` は、除外する TCP ポートの番号です。

または、次のコマンドを実行します。

```
$ tarantella config edit --xpe-args "-xport portnum"
```

たとえば、X ディスプレイポート 10 を X プロトコルエンジンで使用されないように除外するには、次のように指定します。

```
$ tarantella config edit --xpe-args "-xport 6010"
```

行なった変更は、新しい X プロトコルエンジンでのみ有効になります。既存の X プロトコルエンジンに影響はありません。

3.1.7. 6957820 - Windows アプリケーションでスマートカード認証を使用すると、SGD Client がハングする

問題: Ubuntu Linux 10.04 クライアントデバイスから Windows アプリケーションセッションにログインするためにスマートカードを使用すると、ユーザーが認証されたアプリケーションセッションを終了したあと、SGD Client がハングします。ユーザーは、さらにアプリケーションを起動したり SGD からログアウトしたりすることができなくなる場合があります。

原因: Ubuntu クライアントプラットフォーム上の PCSC-Lite version 1.5.3 の既知の問題です。

解決策: クライアントデバイス上の PCSC-Lite を最新バージョンに更新します。

3.1.8. 6962970 - Windows クライアントデバイスで複数の CAL が使用される

問題: Windows クライアントデバイスは、複数のクライアントアクセスライセンス (Client Access Licence、CAL) に割り当てられます。Windows アプリケーションが起動するたびに、CAL が誤って割り当てられます。

原因: `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\MSLicensing` キー、またはそのサブキーのいずれかが、クライアントデバイス上の Windows レジストリで見つからない場合の既知の問題です。この問題は、Microsoft Windows 7 プラットフォームに影響します。

解決策: 管理者権限でリモートデスクトップ接続を開始して、見つからないキーを再作成します。詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事 187614 を参照してください。

3.1.9. 6970615 - X アプリケーションで SecurlD 認証が失敗する

問題: RSA Authentication Agent for PAM の使用時に X アプリケーションの SecurlD 認証が失敗します。この問題は、接続方法に Telnet を使用するように設定されている X アプリケーションで発生します。

原因: RSA Authentication Agent for PAM の使用時の既知の問題です。

解決策: 接続方法に SSH を使用するように、X アプリケーションオブジェクトを構成します。

3.1.10. 7004887 – Windows クライアントデバイスの「ファイルへ印刷」が失敗する

問題: SGD を介して表示される Windows アプリケーション内でユーザーが「ファイルへ印刷」メニューオプションを選択すると、クライアントデバイスの印刷キューに印刷待ち行列が保持されたままになります。この問題は Windows Vista および Windows 7 のクライアントデバイスで発生します。

原因: 一部のバージョンの Windows に関する既知の問題です。

解決策: Windows Vista についての回避策は、Microsoft サポート技術情報の記事 2022748 に記載されています。

3.1.11. 12300549 – 一部のクライアントロケールでホームディレクトリ名を読み取れなくなる

問題: SGD でクライアントドライブマッピングを使用するとき、ユーザーのホームディレクトリの名前に読み取れない文字が含まれることがあります。デフォルトでは、ユーザーのホームディレクトリは「My Home」と呼ばれるドライブにマップされます。

この問題は、`ja_JP.UTF-8` などの英語以外のクライアントロケールで構成された Windows 以外のクライアントデバイスで見られます。

原因: 一部のクライアントロケールに関する既知の問題です。

解決策: 現在のところ、既知の解決策はありません。

3.1.12. 13068287 – 16 ビットカラーの OpenGL アプリケーションの問題

問題: 3 次元グラフィックプログラムなどの OpenGL アプリケーションは、SGD を介して公開すると、開始しないか正しく表示されません。この問題は、X アプリケーションオブジェクトの発色数の設定が 16 ビットに構成されている場合に見られます。

原因: 16 ビットカラーを使用して OpenGL アプリケーションを表示するときの既知の問題です。

解決策: 回避策は 24 ビットの発色数設定を使用してアプリケーションを表示することです。

3.1.13. 13117149 – Active Directory ユーザー名のアクセント付き文字

問題: ドイツ語のウムラウト文字 (ü) などのアクセント付き文字を含むユーザー名について、Active Directory の認証が失敗します。この問題は、Windows Server 2003 R2 を使用するときに見られます。

[server/login/info](#) ログフィルタを使用するとき、ログ出力に次のエラーが表示されます。

```
javax.security.auth.login.LoginException: Integrity check on decrypted field failed (31)
```

原因: Active Directory の認証では Kerberos 認証プロトコルを使用します。これは、Kerberos 認証が DES 暗号化を使用するように構成されている場合の既知の問題です。

解決策: 回避策は、SGD サーバーの [krb5.conf](#) Kerberos 構成ファイルで DES 暗号化の使用を無効にすることです。

[krb5.conf](#) ファイルの [\[libdefaults\]](#) セクションに次の行を含めます。

```
[libdefaults]
default_tgs_enctypes = rc4-hmac des3-cbc-sha1 aes128-cts aes256-cts
default_tkt_enctypes = rc4-hmac des3-cbc-sha1 aes128-cts aes256-cts
```

3.1.14. 13354844、14032389、13257432、13117470 – Ubuntu クライアントデバイス上の表示の問題

問題: Ubuntu Linux を実行中のクライアントデバイスで、次に示す表示上の問題が見られることがあります。

- ウィンドウマネージャーを使用していないか、[evilwm](#) などの最小限のウィンドウマネージャーを使用している場合、キオスクモード最小化ボタンが機能しない。
- キオスクモードと統合ウィンドウ表示とを切り替えるボタンが機能しない。
- Unity デスクトップを使用しているとき、SGD Client タスクバーアイコンが表示されません。
- 複数モニターに広がるはずのシームレスウィンドウアプリケーションが、単一モニター上でスクロールバー付きで表示されます。

原因: Ubuntu Linux クライアントデバイスを使用するときの既知の問題です。

解決策: 次のいずれかの回避策を使用します。

- キオスクモードウィンドウ装飾を使用するには、ウィンドウマネージャーは変更状態プロトコルを「標準」から「アイコン化」で実装する必要があります。適切なウィンドウマネージャーを実行します。
- キオスクモードと統合ウィンドウ表示を切り替えるには、Ctrl+Alt+Break キーボードショートカットを使用します。
- SGD Client タスクバーアイコンを表示するには、SGD Client アプリケーションを Unity デスクトップのホワイトリストに追加します。

[dconf-editor](#) を起動し、「デスクトップ」→「Unity」→「パネル」ダイアログに移動します。[Oracle Secure Global Desktop](#) をアプリケーションの一覧に追加します。

- 複数モニター上でシームレスウィンドウの問題については、既知の解決策はありません。

3.1.15. 13360596 – Oracle VDI でのパススルー認証の問題

問題: VDI ブローカと Oracle VDI を使用しているとき、Windows デスクトップへの認証中にエラーが表示されます。ユーザーはデスクトップを起動するたびに、パスワードを毎回入力する必要があります。

Cause: Oracle VDI の特定の構成について、SGD がユーザーの資格情報をキャッシュする方法に関する既知の問題です。

解決策: SGD サーバー上で、[/opt/tarantella/webserver/tomcat/tomcat-version/webapps/sgd/applicationLaunch/appLaunch.jsp](#) のアプリケーション起動スクリプトを編集します。

[appLaunch.jsp](#) の 484 行にある次の文を見つけます。

```
if (chosenCandidate.getUsername() == null)
```

この文を次のように編集します。

```
if (chosenCandidate.getUsername() == null || chosenCandidate.getPassword() == null)
```

3.1.16. 13971245 – Oracle Solaris 11 でのパッケージ削除の問題

問題: Oracle Solaris 11 プラットフォームで SGD が完全にアンインストールされないことがあります。SGD をアンインストールしたあと、SGD パッケージのエントリが Solaris パッケージデータベースに存在したままになります。

原因: Oracle Solaris 11 に付属する Image Packaging System (IPS) を使用していて、SGD を削除するときの既知の問題です。

解決策: 回避策は、SGD をアンインストールしたあと、SGD パッケージデータベース修復スクリプト `pkgdbfix.sh` を使用することです。このスクリプトは SGD サーバーの `/opt/tarantella/etc/data` ディレクトリに格納されています。

スーパーユーザー (root) でログインし、次を実行します。

- SGD をアンインストールし、Solaris パッケージデータベース内の SGD パッケージエントリを確認します。

```
# pkgchk -l tta
# pkgchk -l tta.2
```

- 上のいずれかのコマンドを使用してパッケージエントリが報告された場合、パッケージデータベースを修復します。

```
# sh pkgdbfix.sh package-instance
```

ここで、`package-instance` は報告されたパッケージインスタンスで、`tta` または `tta.2` です。

3.1.17. 14026511 – Oracle VDI のアップグレード後に VDI ブローカ接続が失敗する

問題: Oracle VDI ホストをアップグレードまたは再構成したあと、ユーザーは VDI ブローカを使用して Oracle VDI デスクトップに接続できないことがあります。

原因: VDI ブローカを使用するとき、Oracle VDI ホストへの接続は、Web サービス API 用の自己署名付き SSL 証明書を使用してセキュリティ保護されます。

ホスト上の Oracle VDI を再構成またはアップグレードするたびに、Web サービス自己署名付き証明書が再生成され、既存の SSL 証明書は保持されません。さらに、アップグレードすると、Web SSL 証明書のホスト名 (サブジェクト) が変更されることがあります。

解決策: 次のいずれかの回避策を使用します。

- アップグレードまたは再構成を行う前に、Oracle VDI ホスト上の Web サービス証明書キーストアをバックアップします。Oracle VDI インストールに変更を加えたあと、キーストアをバックアップから復元します。

このプロセスは、Oracle VDI のドキュメントに記載されています。

- VDI ブローカを次のように再構成します。
 - 各 Oracle VDI ホスト用の Web サービス SSL 証明書を、各 SGD サーバーの証明書トラストストアにインポートします。使用する構成によって、トラストストアは CA 証明書トラストストアか専用トラストストアのいずれかです。
 - Web サービス SSL 証明書に表示されたホスト名を使用して VDI ブローカを再構成します。

`preferredhosts` および `failoverhosts` 設定を変更して、新しいホスト名を使用します。

3.1.18. 14021467 – Webtop での言語の選択の問題

問題: 通常の場合、ユーザーは SGD の開始画面にあるリストから、使用する言語を選択できます。次に、「ログイン」をクリックして、その言語の Webtop にアクセスします。

SGD の開始画面で言語を選択したあと、ユーザーは後続のログインで、別の言語を選択できないことがあります。

原因: 使用する言語の選択のキャッシュに関する既知の問題です。

解決策: 次のいずれかの回避策を使用します。

- 別の言語を選択する前に、ブラウザのキャッシュをクリアします。
- `localeutils.jsp` ファイルの 66 行にある次のテキストを見つけます。

```
prefLang = (String) pageContext.getAttribute(PREF_LANG, PageContext.SESSION_SCOPE);
```

`localeutils.jsp` ファイルは、SGD サーバーの `/opt/tarantella/webserver/tomcat/tomcat-version/webapps/sgd/resources/jsp` ディレクトリにあります。

- このファイルを次のように編集します。

```
if (HttpServletRequest.getParameter(LANG_SELECTED) == null)
    prefLang = (String) pageContext.getAttribute(PREF_LANG, PageContext.SESSION_SCOPE);
```

3.1.19. 14085800 – Active Directory の期限経過パスワード処理の問題

問題: Active Directory のパスワードの期限が切れたあと、ユーザーは SGD からプロンプトが表示されたときに自分のパスワードを更新できます。ただし、更新されたパスワードはパスワードキャッシュに常に正しく保管されるとは限りません。

つまり、一部のユーザーは、Windows アプリケーションサーバー上にホストされたアプリケーションを起動するたびに、認証資格を求めるプロンプトが表示されることがあるということを意味します。

この問題は、次のことが該当するときに見られます。

- パスワードがキャッシュされている場合に、アプリケーションサーバーにログインするときにユーザーのパスワードを自動的に試すように SGD が構成されている。SGD はデフォルトでこれを実行します。
- Active Directory サービスオブジェクトのパスワード有効期限設定 (`--check-pwd-policy`) が有効になっている。

原因: SGD が Active Directory の期限経過パスワードを処理する方法に関する既知の問題です。

解決策: 次の回避策を使用します。

- サービスオブジェクトのパスワード有効期限の機能を無効にします。次に例を示します。

```
$ tarantella service edit --name ad1-east --check-pwd-policy 0
```

- Windows アプリケーションオブジェクトのドメイン名属性を構成します。次に例を示します。

```
$ tarantella object edit --name obj --ntdomain east.example.com
```

3.1.20. 14147506 – プライマリサーバーが変更された場合にアレイ回復が失敗する

問題: アレイが修復済みの状態になったときにプライマリサーバーを変更すると、アレイ回復が失敗することがあります。フェイルオーバー段階が完了すると、アレイは修復済みの状態になります。

アレイ回復の復旧段階のあと、通信不能のサーバーがアレイにふたたび参加すると、別のアレイメンバーとの通信が機能しないことがあります。

この問題は、アレイ内のセキュリティ保護された通信がアレイに対して有効にされたときに見られます。

原因: アレイ内のセキュリティ保護された通信が使用されたときのアレイ回復に関する既知の問題です。デフォルトでは、SGD サーバーのアレイ内でのセキュア通信は有効にされています。

解決策: 既知の解決策はありません。可能な場合、アレイ回復の処理中にアレイ構造を変更することは避けてください。

3.1.21. 14221098 – Oracle Linux で Konsole アプリケーションが起動に失敗する

問題: KDE `Konsole` 端末エミュレータアプリケーションが、SGD の X アプリケーションオブジェクトとして構成された場合、起動に失敗します。

この問題は、アプリケーションが Oracle Linux 6 プラットフォーム上でホストされた場合に見られます。

原因: [Konsole](#) を Oracle Linux 6 上で実行する場合の既知の問題です。この問題は、起動時にフォークするアプリケーションプロセスが原因です。

解決策: 回避策は、[Konsole](#) を起動するとき、`--nofork` コマンドオプションを使用することです。

Administration Console で、X アプリケーションオブジェクトの「起動」タブに移動し、「コマンドの引数」フィールドに `--nofork` を入力します。

3.1.22. 14237565 – Windows 以外のクライアントデバイスで印刷するときのページサイズの問題

問題: 印刷ジョブが、正しいページフォーマットでクライアントプリンタに配信されません。たとえば、A4 ページサイズのドキュメントの印刷ジョブが、Letter ページサイズのドキュメントとしてクライアントプリンタに配信されます。クライアントプリンタの構成によっては、プリンタジョブが失敗する原因となることもあります。

この問題は Linux および Mac OS X のクライアントデバイスを使用するときに発生します。

原因: Windows 以外のクライアントデバイスで印刷するときの既知の問題です。

解決策: 一部のクライアントプリンタは、ページサイズフォーマットを無視するように構成できます。

回避策は、SGD から出力するときに PDF 印刷を使用することです。

3.1.23. 14287570 – 画面解像度が高い場合に Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションのカラー発色数が 8 ビットに制限される

問題: Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションで画面解像度が高い場合に、クライアントデバイス上での表示カラー発色数が 8 ビットに制限されます。この問題は、画面解像度が 1600 x 1200 ピクセルよりも高い場合に発生します。

原因: Windows Server 2003 リモートデスクトップサービス セッションに関する既知の問題です。

解決策: 発色数を 16 ビットに増やす方法の詳細については、Microsoft ホットフィックス 942610 を参照してください。

3.1.24. 14287730 – コマンド行からシャドウイングするときの X エラーメッセージ

問題: `tarantella emulatorsession shadow` コマンドを使用して、アプリケーションセッションをコマンド行からシャドウイングするとき、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
X Error: BadImplementation
Request Major code 152 (RANDR)
Request Minor code 8 ()
Error Serial #209
Current Serial #209
```

エラーメッセージにかかわらず、シャドウイングは期待されたとおりに動作します。

原因: クライアントデバイス上の X サーバーがセッションのサイズ変更を実装しない場合の既知の問題です。

解決策: エラーは軽微であり無視できます。

3.1.25. 14404371 – 認証ダイアログのユーザー入力文字を読み取れない

問題: ユーザーが SGD 認証ダイアログを使用して認証資格を入力しようとしたとき、一部の入力文字が読み取れないことがあります。この問題は、ユーザーの資格情報にヨーロッパ言語文字などのマルチバイト文字が含まれる場合に Windows 以外のクライアントデバイスで見られます。

SGD 認証ダイアログは、ユーザーが Shift キーを押したまま Webtop のアプリケーションリンクをクリックするときに表示されます。

原因: SGD Client が一部のクライアントデバイス上でフォントリストを設定する方法に関する既知の問題です。

解決策: 次の回避策を使用します。

- クライアントデバイス上で、次の内容を持つフォント指定ファイルを作成します。

```
*XmTextField*fontList: -*-medium-r-normal-*-*-120-*-*-*-*
```

- クライアントデバイス上でフォントを使用できるようにします。

```
# xrdp -merge filename
```

ここで、`filename` はフォント指定ファイルの名前です。

あるいは、ホームディレクトリの `.Xresources` ファイルにフォント指定を追加することもできます。

3.1.26. 14408025 – Ubuntu Linux 上で SGD Client が突然終了する

問題: Ubuntu Linux 12 クライアントデバイスで、SGD Client が突然終了することがあります。つまり、ユーザーはアプリケーションを再開または再起動する必要があることを意味します。

原因: この問題は、Enlightened Sound Daemon (ESD) ライブラリ `libesd.so` が存在しないことが原因です。

解決策: 次のようにして、欠落しているライブラリをクライアントデバイスにインストールします。

```
# apt-get install libesd0
```

3.1.27. 14472019 – システムの起動時に SGD が起動しない

問題: Oracle Linux 6 プラットフォームで、SGD ホストが起動するときに SGD が自動的に起動しません。

SGD ホストが停止するとき、SGD サービスは正常に停止しません。

原因: この問題は、Oracle Linux 6 で導入されたシステム起動アーキテクチャーの変更によるものです。つまり、SGD をインストールするときに、必要なシンボリックリンクが自動的に作成されないことを意味します。

解決策: 次のようにシンボリックリンクを追加します。

```
# ln -s /etc/init.d/sun.com-sgd-base /etc/rc3.d/S90sun.com-sgd-base
```

3.2. version 4.70 で修正されたバグ

次の表に、4.70 リリースで修正された重要なバグの一覧を示します。

表3.1 4.70 リリースで修正されたバグ

参照	説明
14399820	APPLICATION LAUNCHES FAIL WHEN USING SECURID ON APPLICATION SERVER
14377391	SGD CLIENT IN ORACLE LINUX 5.8 SUN RAY SESSION CRASHES ON START UP
14375562	TTATCC DOES NOT INTEGRATE WITH SUN RAY LICENSE STORE
14360939	CLIENT WINDOWS MANAGEMENT FOCUS IS NOT SET CORRECTLY WHEN A WINDOW IS CLOSED
14341167	WARNING MESSAGES SEEN WHEN RESTARTING TARANTELLA ON SOLARIS SPARC SGD SERVER
14324111	NULL POINTER EXCEPTION IN PROXY.CONNECTION.START
14309113	SEAMLESS WINDOWS APPLICATION, MENUS NOT SHOWN PROPERLY ON MULTI MONITOR
14303042	TTATSC CRASHES WHEN VIEWING CERTAIN URLS WITH WIN 7 APPLICATION SERVER (PORT OF 14097708)

参照	説明
14282154	WE SHOULD DOCUMENT HOW TO ENABLE SECURE COOKIES WITH PLAIN TEXT CONNECTIONS
14273752	SGD CLIENT SEGMENTATION FAULTS WHEN LAUNCHING A SEAMLESS WINDOWS APP FROM A UBUNTU 11.10 CLIENT
14272631	REPAINT ISSUE WHEN GRABBING A SESSION TO WINDOWS FROM UBUNTU LINUX
14225437	DOCUMENT VERSIONS OF X11 SOFTWARE
14221098	PROBLEMS RUNNING KONSOLE ON OEL 6.2
14215152	LOGIN BUTTON ON MAIN ENTRY PAGE IS NOT LOCALIZED
14213904	OVERRIDE PROXY SETTING DOES NOT WORK
14203183	LD.SO.1: TTAXTEXTCONV: FATAL: LIBICONV.SO.2: OPEN FAILED
14202226	WINDOWS APPLICATION EXITS WHEN SCREEN SAVER APPEARS IN THE APPLICATION
14202097	CLASSROOM OBJECT FAILS TO LAUNCH WHEN X AUTHORIZATION FOR X DISPLAY IS ENABLED
14194633	COMMAND NOT FOUND ERROR ON TRYING TO SHADOW A CHARACTER OR SUSPENDED APPLICATION FROM CLI
14194487	SEGMENTATION FAULT IS SEEN ON CLOSING A SHADOWED SESSION LAUNCHED WITH -- SILENT OPTION
14174406	CLIENTSESSIONOBJECT.FORWARDREQUEST DROPS ONE CONNECTION, TWO IF PEER SSL ENABLED
14169371	JDEVELOPER CRASHES THE TTAXPE
14169009	MAC OS X CLIENT SEGMENTATION FAULT ON CHANGING PROFILE SETTINGS
14151185	SETUP LOG ERROR FOR 3270 AND 5250 APPLICATIONS CREATED WITH LOCKKEYMAP ARGUMENT
14128209	VARIOUS SEAMLESS WINDOWS TOGGLE PROBLEMS UNDER UNIX
14124560	SGD CLIENT CORE DUMP FOR COMMAND LINE START UP
14124146	ORACLE SGD BANNER IS MISALIGNED
14123398	SGD CLIENT NOSTARTIMMEDIATE FLAG NOT WORKING
14119028	TTATSC USES 100% CPU
14101871	DOC CORRECTION REQUIRED FOR TARANTELLA OBJECT NEW_GROUP
14101499	4.7 PORT OF 13947409 AND REMOVAL OF INSTRUMENTATION
14101480	CAPS LOCK STATE SYNC WHEN KEYBOARD IS JAPANESE PC ON SERVER
14080078	SOLARIS 11: 3270 AND 5250 WILL NOT RUN BECAUSE OF MOTIF DEPENDANCY
14079220	PRTINSTALL MESSAGE MENTIONS CONFIG FILES THAT MIGHT NOT EXIST
14068868	SGD CLIENT CRASHES WHEN DEFAULT URL IS INVALID AND NO PROMPT/PROFILE/URL ARGS
14064173	PRINTING FROM GNOME EDIT FAILS
14062558	TTATCC DOES NOT LAUNCH ON SOLARIS 11 CLIENT
14058535	DIRECTORY SERVICE UNAVAILABLE ERROR WHEN NO PASSWORD SUPPLIED
14058517	PORT OF 13968262: DUPLICATE SESSION/APP START ISSUES FOR SOME USERS
14053610	UNSAFE DOWNGRADE OF ALL INTERNET EXPLORER TRAFFIC TO HTTP1.0/TLS1.0
14053578	DEFAULT CHARACTER APPLICATION DOES NOT LAUNCH
14051828	APPARENT PROBLEM WITH WIDTH/HEIGHT RETURNED IN EXTENSION EVENT (RANDR)
14042478	SEAMLESS WINDOWS APPLICATION IS REPRESENTED IN TASKBAR USING APP ICON WHEN COLOR DEPTH IS 16/8

参照	説明
14032389	MAXIMISE BACK TO KIOSK MODE NOT WORKING VERY WELL
14032229	UNLOCALIZED MESSAGES IN PROFILE EDIT PAGE
14027702	CLIENTS MAXIMUM SIZE FEATURE IS BROKEN
14025219	SGD NOT PRESERVING APACHE PORT NUMBER ON UPGRADE
14021791	TTWEBTOP WINDOW: CALCULATING FRAME INSETS... MESSAGE IS DISPLAYED ON UBUNTU 12.04
14021492	MISSING ZH_TW TAIWAN KEYBOARD ENTRY IN USER PROFILE
14019019	FILES SHOULD BE OWNED BY ROOT OR BIN NOT TTASERV
14018841	SGDAUDIO DAEMON DOES NOT RUN ON SOLARIS SPARC
14018564	LDAP PASSWORD EXPIRY CHANGE DOES NOT WORK
14006086	RDP SHORTCUT KEYS FOR SCREEN COPY BEHAVIOR ARE INVERTED
14005396	ARRAY IS NOT REPAIRING WHEN PRIMARY IS OUT OF NETWORK
14004321	SEAMLESS WINDOWS PAINT APPLICATION CANNOT BE MOVED TO RIGHT AFTER RESUMING IT ON MULTI MONITOR SETUP
14002030	WINDOWS LAUNCHES TO A 2008 R2, RDPSEC LAYER, FIPS COMPLIANT FAIL - NO ERROR
14000588	UNLOCALIZED MESSAGES DISPLAYED
13999334	GLOBAL GRAB BY AN APPLICATION CAN LOCK ALL APPLICATION SESSIONS THAT SHARE AN XPE
13997556	NLA ALWAYS ON, EVEN WHEN DISABLED FOR OBJECT
13997183	TTATSC SEGMENTATION FAULTS ON SESSION DIRECTORY REDIRECT
13996950	CANNOT RUN TTATSC MANUALLY WITHOUT LD_LIBRARY_PATH BEING SET
13996443	AN APPLICATION USING RANDR DOES NOT INFLUENCE THE SIZE OF THE SHADOW SESSION
13995625	EXCEPTIONS SEEN WITH MYDESKTOP/AUTOLOGOUT FUNCTIONALITY
13995357	INPUT METHOD IS NOT INVOKED
13991896	TTASHADOW SHOULD BE ROBUST WHEN HAVING A WRONG FONT IN THE DEFAULT FONT PATH
13974978	ESC - NEED A 4.62 REPLACEMENT FOR 4.50 GROUP MATCHES FEATURE
13969843	TTATCC SEGMENTATION FAULTS ON LOG OUT
13969017	LDAP AND AD USERS WITHIN THEIR DN SEE AN EMPTY WEBTOP
13943954	REINSTALL OF SGD THROWS WARNING AFTER UNINSTALL WITHOUT PURGE
13943594	3270 APPLICATION LAUNCHED THROUGH SGD SERVERS GIVES JUNK CHARACTERS
13943378	ADMINISTRATION GUIDE MESSAGE SHOULD BE REMOVED
13943130	ON SILENT SHADOWING, MESSAGES SHOULD BE GIVEN TO ADMIN ON THE STATUS OF THE USER APPLICATION
13940099	SGD CLIENT NOT COMPATIBLE ERROR ON RESTARTING TARANTELLA
13939571	CWM X APPLICATION EXITS ON CLICKING THE SHADOWING WINDOW
13933608	ENHANCEMENT MODULE INSTALLATION THROWS AN ERROR OF NO SUCH FILE OR DIRECTORY
13931179	VDI BROKER ALWAYS DISPLAYS GUEST POOLS
13924905	SGD, LD_LIBRARY_PATH AND SETUID
13920661	ON SUN RAY CHOOSE ZH_TW BIG5 - THE SGD CLIENT CRASHES IN DDPSCINIT()

参照	説明
13920424	UNINSTALLATION OF SGD FAILS ON ORACLE LINUX BECAUSE OF YUM INSTALL DEPENDENCIES
13920127	GETTING WRONG MESSAGE DURING CONFIGURATION OF SGD SERVER ON SOLARIS 11
13919290	CGI SCRIPTS ARE MISSING EXECUTE PERMISSIONS ON SOLARIS
13918324	SOME ES/IT/PT_BR WEB PAGES ARE INCOMPLETELY LOCALIZED
13896960	XPE MMAP() MEMORY ALLOCATION STILL NEEDED ON SOLARIS
13887082	SGD DIRECTORY SERVICES INTEGRATION USER ATTRIBUTE AUTHENTICATION CACHE BROKEN
13871529	KIOSK UI CAN APPEAR ON THE WRONG MONITOR
13854955	CLASSROOM OBJECT FAILS TO LAUNCH
13852504	GATEWAY FAILS AND DENIES LOGINS
13849967	SUN RAY REMOTE SCREEN CAPTURE KEY SEQUENCE LOSES EVENTS
13843469	KIOSK APP SPANS ONLY ONE SCREEN AFTER CHANGING THE RESOLUTION OF ONE IN MULTI MONITOR SETUP
13829872	MAC CLIENT GETS POLISH KEYBOARD LOADED FOR FRENCH INPUT
13829754	ALLOW ACCESS TO XKBSIGNORELOCKMODS FOR MOTIF ACCELERATOR BUGS
13829264	BASIC AUTHENTICATION THIRD PARTY LOG IN DOES NOT WORK WITH TOMCAT 7
13813121	AGED PASSWORD HANDLER TRANSPORT DOES NOT VARY WITH APPLICATION
13810458	CLIENT KEYBOARD LAYOUT OVERRIDE DOES NOT DISPLAY CORRECT TERRITORY
13808564	ADDITIONAL TTAXPE INSTANCE IS STARTED ON LAUNCHING A SHAREABLE APPLICATION
13793464	VDI BROKER LOGS SHOULD INDICATE WHEN THE VDA.CREDENTIAL PROPERTY WAS RECEIVED
13783709	KIOSK DROP DOWN CONTROL IS TOO SLOW
13777898	CORRECT LOGGING AND MAKE IT MORE INFORMATIVE
13768869	TTACPE DUMP CORE PERIODICALLY
13741660	UPGRADE SCRIPTS CANNOT GREP OR COPY OLD PROPERTIES FILE
13721719	REVIEW THE 12296158 CPE FIX
13720573	HTTP STATUS 500 ERROR SEEN WHEN LC_ VARIABLES ARE SET TO C
13707502	TABBING ORDER OF THE UI ELEMENTS OF THE TTATCC PROMPT IS NOT CORRECT
13703100	APPLE KEYBOARD ISSUES
13702339	VDI BROKER: USERS ARE NOT PROMPTED FOR CREDENTIALS WHEN AUTHENTICATION IS DISABLED ON VDI SERVER
13696359	CHANGING THE PREFERRED LANGUAGE TO DE REPLACES EN WITH DE
13680486	SGD CLIENT INSTALLATION WINDOW DOES NOT SHOW THE CONTENTS IN THE PREFERRED LANGUAGE
13635728	AT INSTALL TIME THE SCRIPT CHECKS PORT 80 IS FREE - CHECK 443 AS WELL OR INSTEAD
13635716	CLEAN UP THE END OF INSTALL TEXT
13634040	VDI BROKER DOES NOT DETECT EXPIRED CERTIFICATES UNLESS SEPARATE TRUSTSTORE IS CONFIGURED
13630575	RDP LICENSE POOL: PROFILE SETTING REFERS TO SSGD
13618869	WEBTOP SESSION IDLE TIMEOUT CAN FAIL IN AN ARRAY
13603137	OEL6 SELINUX CONFIGURATION ISSUE CAUSES PROBLEM FOR SGD PRINTING

参照	説明
13596466	ESC: SGD (VDI) SESSION APPEARS TO CRASH WHEN USING PARTICULAR SPREADSHEETS
13596303	ESC: SGD TTATSC (VDI) SESSION APPEARS TO CRASH WHEN USING PIVOT TABLE IN MICROSOFT EXCEL
13583751	KEYSTORE GEN SCRIPT TEST FAILS ON SERVERRENAME OF EXISTING NODE
13582025	SGD BROKER LISTS APPLICATION SERVERS WHICH ARE DISABLED AS LAUNCH CANDIDATES
13525046	ENSURE ALL WINDOWS 2008 R2 AUDIO AND SESSION DIRECTORY CHANGES ARE IN 4.62
13524320	PORT 13422037 TO 4.7 (AGED PASSWORD HANDLER FAILS IN 4.6)
13520731	CANNOT USE THE SAME BROKER (CONFIGURED DIFFERENTLY) BETWEEN DYNAMIC APP SERVERS
13510249	TARANTELLA PASSCACHE LIST FAILS IN SOME CIRCUMSTANCES WHEN SERVER IS RUNNING
13505639	REMOVE LOCAL LAUNCH
13496613	NUMEROUS TR: WARNING: AN UNESCAPED BACKSLASH MESSAGES INSTALLING SGD ON OEL 6.1
13485736	LDAP SEARCHES FROM THE ADMIN CONSOLE ARE NOT CONFIGURABLE
13474437	MAKE DEVICESERVICE MORE ROBUST
13465649	REMOVE REXEC AND RCMD TRANSPORTS
13465645	NTLA IS DEPRECATED
13457415	SOLARIS 11: CHANGE ADMINISTRATOR PROFILE TO USE A LOGIN NAME WITH A ROOT ROLE
13451793	PORT 13442124 ADMIN CONSOLE FIX TO 4.7
13451320	PORT TTASHADOW LAUNCH FIXES TO 4.7
13441204	PORT OF 13255477 TO 4.7
13432087	MAC MANUAL INSTALLER WILL REPLACE ANY EXISTING SGD CLIENTS
13424293	LICENSE POOL REMOVAL ON UPGRADE TO 4.7
13414544	RFE: NEW BROKER FOR ACCESSING A TARGET PLATFORM AT LAUNCH TIME
13408097	UNIX SGD CLIENT DIALOG BOXES SHOULD BE CENTRED ON THE PRIMARY MONITOR NOT AT 0,0
13407638	WINDOW COLOR PRESENTATION ATTRIBUTE NEEDS REVIEWING
13403026	AUDIO DEVICE DOES NOT BUILD WITH ORACLE LINUX UEK HEADERS
13390651	AUDIO RECORD AND PLAYBACK IS CHOPPY OVER VPN, BETTER WITH COMPRESSION
13386831	VDI 3.3 BROKER DOES NOT PROMPT FOR CREDENTIALS AGAIN WHEN SESSION HAS EXPIRED
13386823	REMOVE ONLINE HELP FROM THE ADMIN CONSOLE
13386804	REMOVE DOCUMENTATION FROM INSTALLATION PACKAGES
13375588	MAKE DEFAULT XCLOCK APPLICATION SCALABLE
13359188	ALLOW READ TIMEOUTS TO BE CONFIGURED IN THE VDI 3.3 BROKER
13359119	VDI 3.3 BROKER SHOULD LOG TO A SEPARATE FILE BY DEFAULT
13354844	KIOSK MINIMISE BUTTON NOT WORKING
13341364	DO NOT GET LOCKED OUT ERROR AFTER EXHAUSTING FAILED LOGIN ATTEMPTS
13257432	NO SGD CLIENT PANEL CONTROL IN UNITY DESKTOP ON UBUNTU 11.10
13257339	MAC OS X CLIENT UNNECESSARILY VERBOSE ABOUT THE INPUT SERVICE STATE

参照	説明
13248823	TTASHADOW SEGMENTATION VIOLATION
13118977	SEAMLESS WINDOWS: SHOW DESKTOP CAUSING OCCASIONAL VISUAL DEFECTS
13117053	WINDOWS APPLICATION SESSION IS ENDED ON SGD SERVER BUT IS STILL ALIVE AS AN RDP SESSION
13117046	KIOSK APPLICATION APPEARS IN STRANGE POSITIONS ON A DUAL MONITOR SYSTEM (UBUNTU)
13109118	AD USER IS PROMPTED INCORRECTLY BY SGD TO CHANGE PASSWORD
13097388	PORT OF BUG 12310050
13096064	LOAD BALANCED LAUNCHES ASSIGNED INCORRECT PROFILE FOR LDAP/AD USERS
13087707	INSTALLED SGD CLIENT DOES NOT REMEMBER LOCALE
13065305	RANDR: CAUSES PROBLEMS UNDER COMPIZ
13063591	ESC: VDI BROKER TO WINDOWS 7 VRDP PASSTHROUGH AUTHENTICATION FAILS WITH NON UPN USERNAME
13059922	UNABLE TO LIST CONTENTS OF LIGHT DIRECTORIES FROM COMMAND LINE
13038949	CONFIGURED LDAP OPERATION TIMEOUTS ARE NOT WORKING
13028776	ERROR MESSAGE: THE SGD SERVER URL IS INVALID
13013449	UNNECESSARY LIBXPM DEPENDENCY IN TTATSC
13009764	SGD PRINTING SUBSYSTEM DECLARES PCL PRINTER TO BE POSTSCRIPT PRINTER
12967239	LDAP SEARCHES THAT RETURN SIZE LIMIT EXCEEDED ERROR ARE NOT HANDLED CORRECTLY
12961980	CANNOT INSTALL SGD WINDOWS CLIENT AS A NON-ADMIN USER WITHOUT ADMIN PRIVILEGES
12903943	ADMIN CONSOLE LDAP USER SEARCH FILTER DOES NOT WORK WHEN USING OPENLDAP SERVER.
12863967	TTASHADOW REVIEW
12826145	UNIX CDM FAILS FOR USERS WITH UPPER CASE CHARACTERS
12768524	CREATE A MANUAL INSTALLER FOR THE MAC CLIENT
12768473	UPDATE THE WINDOWS CLIENT'S MANUAL INSTALLER
12768449	UPDATE THE UNIX CLIENT'S MANUAL INSTALLATION SCRIPT
12768390	ALLOW CHOICE OF SGD SERVER WHEN THE SGD CLIENT IS STARTED MANUALLY
12768347	SGD CLIENT HELPER SHOULD MAKE USE OF INSTALLED CLIENTS WHERE POSSIBLE.
12755593	SGD INCORRECTLY REQUIRES GATEWAY NAME TO BE A FULLY-QUALIFIED HOSTNAME
12708195	ESC: ENABLING BILLING SERVICES CAUSES STATUS COMMAND ERROR
12691786	SGD DOCUMENTATION DOES NOT EXPLICITLY STATE SUPPORTED CLIENT REQUIREMENTS
12687906	INCORRECT MESSAGE LOGGED REGARDING ROUTING TOKEN VALIDITY
12667391	CLIENT DRIVE MAPPING: MISLEADING OUT OF MEMORY ERROR MESSAGES WHEN TRYING TO SAVE FILES
12636349	USER NOT PROMPTED FOR AUTHORIZATION IF NLA FAILS
12633214	SGD FAILS TO HANDLE LDAP USER NAMES WITH SPACES AT THE END OF THEIR DNS
12551476	GATEWAY LOGGING DOCUMENTATION IMPROVEMENTS
12542375	CREATE A VIRTUAL SERVER BROKER COMPATIBLE WITH VDI 3.3
12425312	ESC: AUTHENTICATION CONFIGURATION WIZARD: UNABLE TO CREATE A SERVICE OBJECT

参照	説明
12312532	NULL POINTER EXCEPTION WITHIN EXCEPTION HANDLING
12311743	NULL POINTER EXCEPTION WITH FAST LOGIN/LOGOUT CYCLE.
12310344	SUNBT7032412 POTENTIAL INFINITE LOOP IN DYNAMIC LAUNCH
12310034	SUNBT7031082 ESC: APPLICATION MENUS ARE NOT WORKING AS EXPECTED IN SEAMLESS WINDOWS
12309878	SUNBT7030194 ERROR ON DYNAMIC LAUNCH WHEN CREATING A PERMANENT ENS OBJECT
12309725	SUNBT2207875 ESC: X11 APPLICATIONS DO NOT REDRAW CORRECTLY
12309559	SUNBT7028247 JAVA NOT DETECTED CORRECTLY IN INTERNET EXPLORER 9 (WINDOWS 7)
12309384	SUNBT2207614 ESC: SGD 4.50 GATEWAY PROTOCOL TRANSLATION FAILS FROM HTTPS TO HTTP
12309088	SUNBT2207339 ERROR WHEN BUILDING AUDIO DRIVE ON 64-BIT SUSE 11
12308958	SUNBT7024633 ESC: PRINTING FAILS ON SOLARIS WHEN THE USER CN/DN EXCEEDS 149 CHARACTERS
12308892	SUNBT7024122 TARANTELLA STATUS REPORTS INCORRECT SECURITY STATUS
12308632	SUNBT7022398 90-METER SMART CARD STRING BUFFER SIZE AND AUTO-ALLOCATION FIXES
12308362	SUNBT7020722 ESC: UNABLE TO BROWSE AN AD SERVER VIA THE ADMIN CONSOLE
12308030	SUNBT7018972 ESC: OPENSLL COMMAND IN SECURE GLOBAL DESKTOP CANNOT LOAD CONFIG
12307930	SUNBT7018525 SOAP PEER CONNECTIONS ARE NOT ALARMED
12307553	SUNBT7016632 ESC: SGD INSTALLATION FAILS WITH A PERMISSION DENIED ERROR
12307459	SUNBT7016280 DOC: STATEMENT ON ARRAY RECOVER AFTER FAILOVER IS INCORRECT
12307455	SUNBT7016266 DOC: PATH TO SGD WEBSERVICES.JAR IS INCORRECT
12305483	SUNBT7007439 UTTSC CANNOT USE THE CAL STORED BY SGD
12305187	SUNBT7006408 OBSOLETE CLI STILL AVAILABLE
12305168	SUNBT7006334 INCORRECT SECTION LABEL ON PRESENTATION TAB FOR CHARACTER APPLICATIONS
12305011	SUNBT7005437 AUTOMATIC LOGOUT CAN FAIL WHEN AN APPLICATION IS SUSPENDED/RESUMED
12304276	SUNBT7002124 GATEWAY DOCS NEED CORRECTING FOR CONFIG EDIT COMMANDS THAT ARE A LIST
12304039	SUNBT7000901 PRINTERS AND DRIVES NOT MAPPED FOR WINDOWS APPS
12303980	SUNBT7000586 MULTIPLE DEPENDENCY PROBLEMS WHEN INSTALLING 4.6 ON RHEL 6
12303665	SUNBT2202272 ESC: SINCE UPGRADE TO 4.5, PRINT JOBS INTERMITTENTLY STAY IN PRINT
12303609	SUNBT6998552 USING WEB SERVICES TO CREATE A DYNAMIC APPLICATION SERVER WITH A VSB
12303546	SUNBT2202151 IMPROVE SGD 4.50 COMPATIBILITY WITH WINDOWS SERVER 2008 AND 2008 R2
12302189	SUNBT6990599 LDAP URL FILTER WITHOUT A SEARCH FILTER DOES NOT WORK
12301942	SUNBT6989595 SEPARATOR BARS FOR WEBTOP GROUPS NEED REDUCING IN SIZE
12301940	SUNBT6989592 UPDATE DOCS FOR SPAN MULTIPLE MONITORS OPTION
12301668	SUNBT6988236 WEB.XML FOR ADMINISTRATION CONSOLE STILL REFERS TO SUN

参照	説明
12301484	SUNBT6987242 ACTIVE DIRECTORY CONFIGURATION WRONG AFTER AN UPGRADE
12300978	SUNBT2198455 ESC: RFE: SUPPORT FOR SECURE GLOBAL DESKTOP ENHANCEMENT MODULE
12300864	SUNBT6983054 DYNAMIC DRIVE MAPPING WARNING MESSAGES ONLY IN ENGLISH
12300298	SUNBT6979454 REVIEW DOCUMENTED GHOSTSCRIPT MINIMUM VERSION REQUIREMENTS
12299999	SUNBT6977961 A RUNTIME ERROR HAS OCCURRED WHILE CLICKING ON VERSION
12299915	SUNBT2197077 REVIEW /OPT/TARANTELLA/ETC/DATA/CACERTS.TXT
12299530	SUNBT6975570 CHANGE DEFAULT COLOR DEPTH TO 24/32 FOR WINDOWS APPLICATIONS
12299506	SUNBT6975287 UPGRADE LOG REFERS TO LEGACY TARANTELLA DOCS
12299354	SUNBT6974464 KIOSK APPLICATIONS ON UBUNTU HAVE OS TOOLBARS OVER THE TOP
12298702	SUNBT6971208 DOC NEEDS CORRECTING FOR WINDOWS AUDIO AND SUPPORT FOR HIGHER BITRATES
12298004	SUNBT2195462 TERMINAL SERVICES CALS NOT STORED IN REGISTRY ON WINDOWS 7/ VISTA FOR NON-ADMIN USER
12297905	SUNBT6967170 APPLICATION SESSION RESUMABILITY TIMEOUTS NEED CLARIFICATION
12297901	SUNBT6967158 CDE DOES NOT COME UP FOR SOME LOCALIZED ENVIRONMENT FROM SGD
12297796	SUNBT2195370 SECURITY ENABLE WITH A THAWTE TEST CERT FAILS TO ACCEPT ROOT OR INTERMEDIATE CERTIFICATE
12297749	SUNBT2195328 ESC: AUDIO CANNOT BE HEARD WITH WIN2008 R2 AS THE APPLICATION SERVER
12296804	SUNBT6961989 NON-ASCII CHARACTERS ARE NOT RETURNED TO THE LOGIN BOX
12296679	SUNBT6961333 SGD CLIENT INSTALL DIRECTORY: ORACLE REBRANDING NEEDED
12296343	SUNBT2194331 CAPSLOCK ON FRENCH KEYBOARD GIVES CAPITALISED ACCENTED CHRS
12294323	SUNBT2192822 ESC: DISABLE AUTOCOMPLETE ON LOGIN PAGE TO PREVENT BROWSER CREDENTIALS CACHING
12292967	SUNBT6945810 INTEGRATING SGD WITH ORACLE INTERNET DIRECTORY AS AN LDAP BACKEND
12291675	SUNBT6941088 PRINTING TROUBLESHOOTER NEEDS TO COVER RDP SETTINGS
12261595	SUNBT6802404 GATEWAY DOES NOT REPORT IF PORTS ARE IN USE
12260830	SUNBT6799048 CLOCK SKEWING ON GATEWAY SERVERS CAUSES SESSION LAUNCH FAIL
12218812	SUNBT6632783 MAC OS X SGD CLIENT FAILS TO RUN FROM COMMAND LINE

3.3. リリース 4.70 でのドキュメントの問題

ここでは、4.70 リリースのドキュメントに関する既知の問題の一覧を示します。

3.3.1. レガシー VDI ブローカのドキュメントの問題

レガシー VDI ブローカは、SGD がローカルの Oracle VDI 3.2 インストールからデスクトップをリクエストすることを可能にする仮想サービスブローカです。

SGD 4.70 リリースは Oracle VDI バージョン 3.2 をサポートしないため、発行済みのドキュメントに含まれるレガシー VDI ブローカについての説明および構成手順はこのリリースの SGD に適用されません。

3.4. フィードバックの提供および問題の報告

このセクションでは、オラクル Secure Global Desktop 製品についてのフィードバックを提供したり、サポートに連絡を取ったりする方法について説明します。

ソフトウェアのバグを報告したり、質問をしたりするには、[Secure Global Desktop Software Team and Community Forum](#) に連絡してください。Secure Global Desktop Software Team and Community Forum に投稿したからといって、応答が保証されるわけではありません。バグの修正が必要で、<https://support.oracle.com> にある Oracle Premier Support Agreement が存在する場合、Oracle Support でケースを開くようにします。

バグを報告する場合は、次の情報で該当するものを提供してください。

- 問題が発生した状況を含む問題の説明と、業務における重要度についての説明。
- マシンタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、ブラウザのタイプおよびバージョン、ロケールおよび製品バージョン (適用したすべてのパッチを含む)、問題に影響する可能性があるほかのソフトウェア。
- 問題を再現するために使用した方法に関する詳細な手順。
- エラーログまたはコアダンプ。

3.4.1. Oracle スペシャリストサポートへの連絡

Oracle Customer Support Identifier (CSI) をお持ちの場合、まず <https://support.oracle.com> にある My Oracle Support を使用して問題を解決してみてください。Oracle Premier Support CSI は、カスタマイズサポート、サードパーティーソフトウェアサポート、またはサードパーティーハードウェアサポートを対象としません。

問題を解決できない場合、製品の問題の解決/修正で技術支援を得るために、Oracle スペシャリストサポートチームと一緒にケースを登録してください。対応するサポート技術者には、まず次の情報が必要です。

- Oracle Customer Support Identifier。
- 問い合わせている製品。
- 支援を必要とする問題の簡単な説明。

CSI が不明な場合は、該当する国の適切なサービスセンターを見つけてから (<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>)、Oracle サービスに連絡して非技術サービスリクエスト (SR) を開いて CSI を見つけてください。CSI がわかったら、My Oracle Support でケースを開くことができます。